

令和5年度 スポーツ団体（社会教育関係団体等）補助金・分担金事業（案）【スポーツ関係】

（単位：千円）

団体名及び所在地	団体規模等	令和5年度 予算案	令和4年度 予算額	増△減	主な事業名	事業内容
（公財）東京都体育協会 新宿区霞ヶ丘町4-2	49競技団体 59地区体協 3学校体育連盟 が加盟	1,223,888	969,972	253,916	<ul style="list-style-type: none"> ・都民体育大会 ・シニアスポーツ振興事業 ・総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の実施 ・地域スポーツクラブ中間支援組織事業補助 ・地域スポーツクラブ都民参加事業 ・都民体育大会・東京都障害者スポーツ大会合同開会式 ・競技力向上事業 ・パフォーマンスサポート事業 ・ジュニア育成地域推進事業 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・都民体育大会を開催 ・各地区の体育協会や地域スポーツクラブとともに、高齢者を対象としたスポーツ教室や講習会などの事業を実施 ・総合型地域スポーツクラブの質的充実を図る取組を支援 ・中間支援組織として、地域スポーツクラブに対して実施する各種支援事業を支援 ・地域スポーツクラブがクラブ会員に限らず広く都民を対象として行う事業を支援 ・都民体育大会と東京都障害者スポーツ大会の合同開会式を開催 ・国体候補選手など東京アスリートの競技力向上事業を実施 ・選手へのスポーツ医・科学に基づいたサポート事業などを実施 ・小中高生を対象としたスポーツ教室やスポーツ大会などを実施 等
（公財）東京都スポーツ文化事業団 渋谷区千駄ヶ谷1-29-9 日本パーティビル3階	—	1,750,480	1,298,640	451,840	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進企業EnjoySports促進事業 ・参加型スポーツイベントの開催によるスポーツ振興事業 ・スポーツ東京案内 ・スポーツ気運継承事業 ・ジュニアスポーツアジア交流大会 ・都立特別支援学校活用促進事業 ・デフリンピック開催支援 ・東京都スポーツ施設予約システム ・都立スポーツ施設映像配信システムの構築 ・都立スポーツ施設の連携促進事業 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進企業に対して、スポーツインストラクター等の派遣を実施 ・事業団が実施する参加型スポーツイベントの開催を支援 ・webサイト「スポビタ」の運営や区市町村等への競技・レクリエーション指導者の派遣を支援 ・スポーツイベントの広報を統一的・広域的に実施し、都民のスポーツ情報に触れる機会の創出を支援 ・海外各都市からジュニア世代のスポーツ選手や指導者を招き、交流試合や指導者交流を実施 ・都立特別支援学校の体育施設を貸し出すとともに、誰もが参加できる体験教室を実施 ・2025年デフリンピック競技大会開催に向けて、招致主体である全日本ろうあ連盟と協力して大会準備を遅滞なく確実に進めるために、必要な支援体制づくりや計画の策定を実施 ・東京都スポーツ施設予約システムの管理運営を実施 ・都立スポーツ施設にカメラを導入し、大会等の映像を配信できるシステムを構築 ・18施設のネットワークを活かした情報発信や多様なニーズへの対応、共通コンセプトによるイベントの企画・実施等 等
（公社）東京都障害者スポーツ協会 新宿区神楽河岸1-1 飯田橋セントラルプラザ12階	—	760,144	645,258	114,886	<ul style="list-style-type: none"> ・パラスポーツ地域サポート事業 ・障害者のスポーツ施設利用促進事業 ・パラスポーツ人材の活動活性化事業 ・TOKYOパラスポーツチャンネル ・パラスポーツ次世代ホープ発掘事業 ・パラスポーツ競技活動支援事業 ・東京パラアスリート強化事業 ・東京都障害者スポーツ大会 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・区市町村や各団体等への事業相談・サポート、指導員派遣、用具貸与等を行う事業を支援 ・障害者が身近なスポーツ施設を利用する際の配慮や工夫等の事例を収集・発信し、施設管理者等へ普及啓発を実施 ・パラスポーツ指導員や障害者スポーツボランティア等の活動を促進し、資質向上に向けた取組を実施 ・東京近郊で開催される大規模なパラスポーツ大会等をテレビ・Webで中継・配信 ・パラスポーツの次世代ホープを発掘・育成 ・競技団体が行う選手の強化や指導者の養成等を支援 ・東京ゆかりのパラアスリートの競技活動支援や、スタッフの活動環境の整備等を行う事業を実施 ・東京都障害者スポーツ大会の開催及び全国大会への派遣選手の選考 等

令和5年度 スポーツ団体（社会教育関係団体等）補助金・分担金事業（案）【スポーツ関係】

（単位：千円）

団体名及び所在地	団体規模等	令和5年度 予算案	令和4年度 予算額	増△減	主な事業名	事業内容
(一財)東京マラソン財団 江東区有明3丁目7-26 フロンティアビルB棟8階	—	341,054	319,450	21,604	<ul style="list-style-type: none"> 東京マラソンの開催補助 マラソン祭りの開催 東京レガシーハーフマラソンの開催補助 参加型スポーツイベントの開催によるスポーツ振興事業 	<ul style="list-style-type: none"> 東京マラソンの開催に係る安全対策費等の経費を負担 マラソン祭りの開催に係る運営費等の経費を負担 東京レガシーハーフマラソンの開催に係る安全対策費等の経費を負担 マラソン財団が実施する参加型スポーツイベントの開催を支援
(一社)東京都レクリエーション協会 渋谷区千駄ヶ谷1-29-9 日本パーティビル3階	地域団体、 種目団体、 領域団体等 計72団体が 加盟	16,364	16,364	0	<ul style="list-style-type: none"> 都民スポレクふれあい大会 シニアスポーツ振興事業 東京みんなのスポーツ塾 	<ul style="list-style-type: none"> 子供から高齢者までを対象とした、ニュースポーツやレクリエーション大会を開催 レクリエーション団体とともに、高齢者を対象としたスポーツ教室や講習会などの事業を実施 ニュースポーツの指導者養成を目的とした講習会を実施
(一社)東京都スポーツ推進委員協議会 新宿区西新宿6-12-6 コアロード西新宿1302	59地区協議会 1,478人	2,520	2,520	0	<ul style="list-style-type: none"> 東京都スポーツ推進委員研修会 	<ul style="list-style-type: none"> 相互の連携を図り、資質の向上を目的とする研修会を開催 (課題別研修、地区別研修(11ブロック)及び地域スポーツ支援研修)
東京都市町村体育協会連合会 府中市寿町1-5 特定非営利法人府中市体育協会内	30市町村	910	910	0	<ul style="list-style-type: none"> 東京都市町村総合体育大会 	<ul style="list-style-type: none"> 市町村に居住する社会人を対象とした総合体育大会の開催に係る運営費等を負担
競技団体等	—	4,503,395	3,108,834	1,394,561	<ul style="list-style-type: none"> 国際大会の誘致・開催支援【中央競技団体等】 デフスポーツ競技団体都内活動促進事業 【デフスポーツ中央競技団体】 U-15女子ソフトボールワールドカップ2023の開催 【(公財)日本ソフトボール協会】 アーカイブ資産の活用【JOC】 GRAND CYCLE TOKYOの推進 等 【GRAND CYCLE TOKYO実行委員会】 	<ul style="list-style-type: none"> 都内で国際スポーツ大会の開催を目指す団体に対し、誘致活動や開催等を支援 デフスポーツ団体(中央競技団体)が都内で実施する、主催大会、強化練習会等に係る活動を支援 同世代のトップパフォーマンスに直接触れることでジュニアアスリートの競技力向上を図るとともに、各国選手との交流を通じて国際感覚を育む機会を提供するため、大会の開催を支援 アーカイブ文書が適切に利活用される環境を整えるため、管理責任を持つJOCを支援 臨海部において自転車を体感し楽しむイベントを実施するとともに、多摩部では本格的なロードレース等を実施

令和5年度 スポーツ団体（社会教育関係団体）補助金・分担金事業（案）【学校体育関係】

資料1-2

（単位：千円）

団体名及び所在地	団体規模等	令和5年度 予算案	令和4年度 予算案	増△減	事業名	事業内容
東京都高等学校体育連盟 新宿区西新宿2-8-1 東京都教育庁指導部内	都内高等学校が加盟	4,646	4,646	〇	東京都高等学校総合体育大会	約13,000名の高校生が参加して開催される総合体育大会。陸上競技等35種目が行われる（4月中旬～2月下旬、駒沢が丘公園総合運動場ほか）
東京都中学校体育連盟 文京区本郷1-3-3 東京都教職員研修センター409室	都内中学校が加盟	5,596	5,596	〇	東京都中学校総合体育大会	約23,000名の中学生が参加して開催される総合体育大会。陸上競技等20種目が行われる（5月中旬～1月上旬、駒沢が丘公園総合運動場ほか）
東京都高等学校体育連盟定時制通信制部 新宿区西新宿2-8-1 東京都教育庁指導部内	都内定時制・通信制高校が加盟	3,459	3,459	〇	東京都高等学校定時制通信制総合体育大会	約4,000名の定時制・通信制の高校生が参加して開催される総合体育大会。陸上競技等13種目が行われる（9月中旬～11月下旬、駒沢が丘公園総合運動場ほか）
東京都ろう学校体育連盟 立川市栄町1-15-7 都立立川学園内	都内ろう学校が加盟	833	833	〇	東京都ろう学校総合体育大会	約300名のろう学校の生徒が参加して開催される総合体育大会。野球等3種目が行われる（8月中旬～9月下旬、駒沢が丘公園総合運動場ほか）
東京都特別支援学校・特別支援学級設置学校体育連盟 東京都北区十条台1-8-41 都立王子特別支援学校内	都内特別支援学校・特別支援学級設置学校が加盟	1,814	1,814	〇	東京都特別支援学校・特別支援学級設置学校総合体育大会	約4,800名の生徒が参加して開催される総合体育大会。陸上競技等6種目が行われる（9月上旬～2月中旬、駒沢が丘公園総合運動場ほか）
日本中学校体育連盟 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2 Japan Sport Olympic Square 401号室	全国の中学校が加盟	7,000	0	7,000	全国中学校体育大会	令和4年度は、北海道・東北ブロックで開催。令和5年度は、東京都でアイスホッケーの1種目を開催。
全国高等学校定時制通信制軟式野球連盟 足立区中央本町1-3-9 都立足立高等学校内	全国の定時制・通信制高校が加盟	835	835	〇	全国高等学校定時制通信制軟式野球大会	地域代表25校約400名の定時制・通信制の生徒が参加して開催される全国軟式野球の大会（8月下旬、明治神宮野球場ほか）
全国高等学校体育連盟定時制通信制部会 千代田区一ツ橋1-1-1 全国高等学校体育連盟内	全国の都道府県高等学校体育連盟定時制通信制部会が加盟	765	765	〇	全国高等学校定時制通信制体育大会	地域代表の定時制・通信制の生徒が参加して開催される全国大会。東京では、陸上競技をはじめ3種目が行われる（7月下旬～8月中旬、駒沢が丘公園総合運動場ほか）
関東聾学校体育連盟 （関東聾学校バレーボール大会東京大会実行委員会） 東京都葛飾区西亀有2-58-1 都立葛飾ろう学校内	関東地域の1都9県のろう学校が加盟	200	200	〇	関東聾学校体育大会	関東地区のろう学校の代表が参加して開催される大会。令和5年度の東京開催は、バレーボール1種目。（7月下旬、武蔵野の森総合スポーツプラザ）
関東高等学校体育連盟 栃木県宇都宮市東谷660-1 県立宇都宮高校内	関東地域の1都7県高等学校体育連盟が加盟	1,200	800	400	関東高等学校体育大会	関東地区の高等学校代表生徒が参加して開催される大会。令和5年度は東京で卓球等6種目が行われる。
関東中学校体育連盟 文京区本郷1-3-3 東京都教職員研修センター409室	関東地域の1都7県中学校体育連盟が加盟	400	800	△400	関東中学校体育大会	関東地区の中学校代表生徒が参加して開催される大会。令和4年度はバスケットボール等4種目を開催。令和5年度は軟式野球・水泳の2種目が行われる。

生活文化スポーツ局〔スポーツ総合推進費・スポーツ施設費〕 令和5年度予算案(概要)

I 事業体系と予算額

(単位：千円)

事業名	令和5年度 予算案	令和4年度 予算額	増(△)減
スポーツ総合推進費	10,578,759	8,207,140	2,371,619
スポーツ総合推進管理事務	316,800	241,169	75,631
公益財団法人東京都スポーツ文化事業団助成	41,777	64,483	△ 22,706
スポーツの振興	3,256,913	3,500,198	△ 243,285
生涯スポーツの振興・地域スポーツの振興 (Ⅱ-1参照)	345,784	298,964	46,820
スポーツムーブメントの創出 (Ⅱ-2参照)	502,501	466,327	36,174
競技スポーツの振興・スポーツ国際交流事業 (Ⅱ-3参照)	1,327,888	1,381,608	△ 53,720
区市町村におけるスポーツ振興施策への支援 (Ⅱ-4参照)	748,000	748,000	0
スポーツを通じた被災地交流事業 (Ⅱ-5参照)	32,669	37,488	△ 4,819
大会のレガシーを継承する取組 (Ⅱ-6参照)	300,071	567,811	△ 267,740
パラスポーツの振興 (Ⅱ-7参照)	1,984,525	1,908,308	76,217
開拓整備事業	604,164	521,607	82,557
人材育成事業	67,578	67,578	0
理解促進事業	839,490	961,204	△ 121,714
競技力向上事業	322,708	242,407	80,301
東京都障害者スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会	150,585	115,512	35,073
国際スポーツ事業の推進 (Ⅱ-8参照)	4,978,744	2,492,982	2,485,762
国際大会を契機としたスポーツ気運醸成等	911,964	0	911,964
国際大会誘致・開催支援	462,399	102,399	360,000
GRAND CYCLE TOKYOの推進	3,188,130	2,000,000	1,188,130
マラソン祭りの開催	416,251	390,583	25,668
スポーツ施設費	13,232,880	14,842,246	△ 1,609,366
スポーツ施設管理事務	123,498	123,390	108
体育施設等の運営 (Ⅱ-9参照)	6,166,711	7,182,373	△ 1,015,662
体育施設等の企画調整	348,143	326,907	21,236
体育施設等の運営	5,818,568	6,855,466	△ 1,036,898
体育施設等の整備 (Ⅱ-10参照)	6,942,671	7,536,483	△ 593,812
スポーツ総合推進費・スポーツ施設費計	23,811,639	23,049,386	762,253

Ⅱ 主要事業

1 生涯スポーツの振興・地域スポーツの振興 3億 4,578万円

- 多くの都民が参加できる各種大会の開催、高齢者の健康維持・増進を図るシニアスポーツ振興事業等を実施
- 総合型地域スポーツクラブの質的充実を図るため登録・認証制度を実施するほか、引き続きクラブの支援を実施
- スポーツ推進企業の交流用Webサイトの活用、スポーツインストラクター等の派遣など、スポーツ推進企業の取組を促進

2 スポーツムーブメントの創出 5億 250万円

- 都民のスポーツ気運の醸成に向け、スポーツイベントを開催
- スポーツイベントの広報を統一的・広域的に実施し、都民のスポーツ情報に触れる機会を創出
- 地域密着型のプロスポーツチーム等と連携し、試合会場における都施策のPR等を通じて、様々な地域課題の解決に向けた取組を実施

3 競技スポーツの振興・スポーツ国際交流事業 13億 2,789万円

- 東京のアスリートの競技力向上を図るとともに、東京のアスリートが、その経験をもとに地域で活躍し、スポーツの裾野を拡大する循環を創出
- 都内競技団体に対し、ガバナンスの確保に資する対応や法人格の取得等、団体の組織基盤強化に係る取組を支援

4 区市町村におけるスポーツ振興施策への支援 7億 4,800万円

- 区市町村のスポーツ施設の統合・再編、改修等による新たなスポーツ活動の場の創出や設備の高効率化に加え、大規模国際大会の競技会場等の整備に資する事業を支援
- 区市町村が実施するスポーツ振興や障害者の継続的なスポーツ実施に資する事業を支援

5 スポーツを通じた被災地交流事業 3,267万円

- 被災県と連携し、東京2020大会の競技会場等を活用して、子どもたちを対象にしたスポーツ交流事業を実施

6 大会のレガシーを継承する取組 3億 7万円

- 都有施設や様々なイベントなどでアーカイブ資産等の展示を行い、大会のレガシーを効果的に発信

7 パラスポーツの振興 19億 8,453万円

- 障害者が身近な地域でスポーツができる環境の整備、パラスポーツを支える人材の裾野拡大と質の向上、観戦機会の提供等を通じたパラスポーツの理解促進・普及啓発、国際大会で活躍するパラアスリートの継続的な輩出に向けた競技力向上事業等、パラスポーツを大会のレガシーとして発展させるため、様々な事業を実施

8 国際スポーツ事業の推進 49億 7,874万円

- 2025年デフリンピック競技大会開催に向けて、招致主体である全日本ろうあ連盟と協力して大会準備を遅滞なく確実に進めるために、必要な支援体制づくりや計画の策定を実施
- 2025年の世界陸上及びデフリンピックの開催をきっかけに、デジタル技術を活用したユニバーサルコミュニケーション技術の発信などを充実させるとともに、スポーツの価値や魅力をさらに体感できる施策を展開
- U-15女子ソフトボールワールドカップ2023の開催を通じ、同世代のトップパフォーマンスに直接触れることでジュニアアスリートの競技力向上を図るとともに、各国選手との交流を通じて国際感覚を育む機会を提供するため、大会の開催を支援
- 臨海部において自転車を体感し楽しむイベントを実施するとともに、多摩部では新たに本格的なロードレース等を実施
- ランナー・応援者・ボランティアなど全ての参加者が一体となるスポーツイベントとして、東京マラソン、マラソン祭り等を開催

9 体育施設等の運営 61億 6,671万円

- 都立スポーツ施設の指定管理料等
- 都立スポーツ施設の戦略的活用に向けた取組として、18施設のネットワークを活かした情報発信や多様な利用ニーズに対応するコンシェルジュ窓口機能の設置、共通コンセプトによるイベントの企画・実施

10 体育施設等の整備 69億 4,267万円

- 駒沢オリンピック公園総合運動場体育館の大規模改修工事の実施
- 辰巳国際水泳場改修工事の実施
- 海の森水上競技場の大会後改修工事等の実施

生活文化スポーツ局 令和5年度組織改正について

令和4年度

生活文化
スポーツ局

総務部

都民生活部

都民安全
推進部

消費生活部

私学部

文化振興部

スポーツ
総合推進部スポーツ
施設部

令和5年度

- 多摩地域での自転車ロードレースの開催や、U-15女子ソフトボールワールドカップ、世界陸上、デフリンピックの開催支援など、国際的なスポーツ大会等に関する事業を推進するため、国際スポーツ事業部を設置

スポーツ
総合推進部

企画調整課

スポーツレガシー
活用促進課

スポーツ課

パラスポーツ課

新

国際スポーツ
事業部

国際大会課

事業調整第一課

事業調整第二課

- 都立スポーツ施設18施設の管理、戦略的活用、整備等を一体的に推進するため、経営企画課及び施設整備課の2課体制に再編

スポーツ
施設部

経営企画課

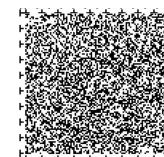
施設整備課



ビジョン2025

スポーツが広げる新しいフィールド

全ての人が輝くインクルーシブな街・東京へ



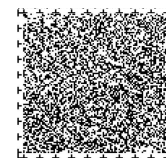
はじめに

2025年、東京で開催される国際スポーツ大会
世界陸上競技選手権大会は、トップアスリートが集う、最高レベルの陸上競技の祭典
デフリンピックは、デフアスリートによる国際総合スポーツ競技大会です。

アスリートのパフォーマンスがもたらす感動と興奮
スポーツを通じて育まれる夢と希望
様々な人々が集まり、力をあわせることで、つながる輪

大きな価値をもたらす国際スポーツ大会の意義に照らし、
東京都は、これからの国際スポーツ大会の開催には3つの要素が重要と考えています。
適正なガバナンスの確保、レガシーの創出、都民参画の機会
両大会をスポーツの根幹であるフェアネスを体現するものにした上で、
スポーツの力によって東京の未来を創ります。
本書は、このような視点に基づき、都が目指す姿をビジョンとしてまとめました。

東京2020大会を経た東京のスポーツの次のフィールドは、
「全ての人々が輝くインクルーシブな街・東京」の実現に貢献すること。
光り輝く未来に向けて、東京に新しい風景を創り出していきます。



共生社会の実現、サステナブルな社会への道筋、
最先端テクノロジーによるスポーツの楽しみ方。
東京2020大会は、多くのレガシーを残しました。
大会を経て、東京は新たなスタートラインに立っています。

TOKYO FORWARDをコンセプトに、
スポーツを通じて、一緒に新しい未来を創っていきましょう。

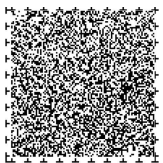
東京都知事 小池 百合子
(東京2020大会一周年記念セレモニー 開会挨拶より)

2025年の世界陸上は、世界レベルの陸上を再び東京の人々にご覧いただき、
将来世代のためにしっかりとしたレガシーを築くことで、
日本にとって輝く光となります。

Sebastian Coe
(セバスチャン・コー／ワールドアスレティックス会長)

東京でデフリンピックが開催されることを、とても楽しみにしています。
デフアスリートのことを知ってもらうとともに、
人々の交流が進む、大きな機会にしたいと思います。

Ádám Kósa
(アダム・コーサ／国際ろう者スポーツ委員会会長)



Contents



世界陸上オレゴン22大会（アメリカ）



サムスン2017デフリンピック大会（トルコ）

はじめに …… 001

大会について …… 004

基本的な方針－5つの柱 …… 006

1 みんなが つながる …… 008

『いつでも・どこでも・誰とでも』つながる街・東京へ

2 ^{せかい} ^{ひとびと} ^{であ} 世界の人々が 出会う …… 010

何度でも訪れたいくなるTOKYOへ

3 こどもたちが ^{ゆめ} 夢をみる …… 012

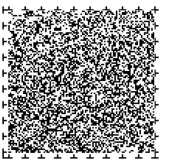
夢と希望にあふれた次世代の東京へ

4 ^{みらい} 未来へ つなぐ …… 014

たくさんの国際スポーツ大会が楽しめる街へ

5 みんなで ^{つく} 創る …… 016

スポーツを通じてつながる街・東京へ



せ かい りくじょうきょうぎ せんしゅ けんたいかい

世界陸上競技選手権大会とは

- ワールドアスレティックス（WA）が主催し、2年毎に開催
- 第1回は、1983年にフィンランドのヘルシンキで開催
- 2025年の大会は、20回目の大会
- 世界で約10億人が視聴。3,000名規模のボランティアが参加
- 東京での開催は1991年大会以来。
日本での開催は2007年大阪大会を含めて通算3回目

2
0
2
5
年

招致した団体 : 公益財団法人 日本陸上競技連盟
日程 : 2025年9月13日～21日（9日間）
種目の数 : 49種目（男子24種目、女子24種目、男女混合1種目）
競技を行う会場 : 東京・国立競技場（マラソン、競歩は東京都内で実施予定）
選手の数 : 約210か国・地域、約2,000人

つ
い
て

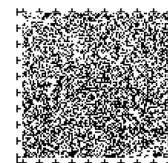
大会に

デフリンピックとは

- 国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）が主催し、4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会
- 第1回は、1924年にフランスのパリで開催
- 2025年の大会は、100周年の記念すべき大会。日本では初めての開催
- 手話のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴

2025年

- 招致した団体 : 一般財団法人 全日本ろうあ連盟
日程 : 2025年11月15日～26日（12日間）
競技の数 : 21競技（陸上、バドミントン、バスケットボールなど）
全日本ろうあ連盟ウェブサイト <https://www.jfd.or.jp/deaflympics2025>
競技を行う会場 : 主に都内会場。サッカーは福島県、自転車は静岡県で実施予定
選手の数 : 70～80か国・地域、約3,000人



基本的な方針

1 みんなが つながる

『いつでも・どこでも・誰とでも』つながる、ユニバーサルコミュニケーションを促進します



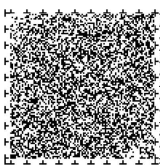
2 世界の人々が 出会う

東京を知ってもらい、世界との絆を深めます



5 つく みんなで 創る

様々な人々が力をあわせて取り組み、スポーツを通じて輝き、つながります



5つの柱

3 ゆめ こどもたちが 夢をみる

次世代を担う子供たちへ夢と希望、多くの学びを届けます

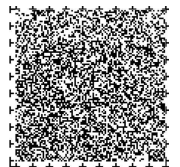


4 みらい 未来へ つなぐ

持続可能性の取組を進め、未来につながる大会を目指します



スポーツで新しいフィールドを広げ、
全ての人が輝くインクルーシブな街・東京へ



1 みんなが つながる



Sport has the amazing power to bring people together.
By coming together,
people can express more than they can.

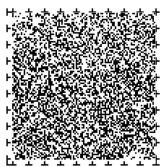
スポーツには人を結び付ける
すばらしい力がある。
そして団結することで
自分たちの力以上のものを
表現することができる。

Oksana Masters
(オクサナ・マスターズ/パラクロスカントリースキー・パラバイアスロン選手)

Tips

「スポーツ」世界の言語

英語	: Sport	/スポーツ
フランス語	: Sport	/スポール
中国語 (簡体字)	: 运动	/ユンドン
中国語 (繁体字)	: 運動	/ユンドン
韓国語	: 스포츠	/スポチュ
タイ語	: กีฬา	/キラ
ドイツ語	: Sport	/シュポルト
イタリア語	: Sport	/スポルトウ
スペイン語	: Deporte	/デポルテ



駅のアナウンスや電車の音を手話や文字で表示する技術

『いつでも・どこでも・誰とでも』 つながる街・東京へ ユニバーサルコミュニケーションの促進

世界陸上とデフリンピックは、世界中から様々な人々が東京に集まり、
新しい出会いが広がるコミュニケーションの場です。
手話の普及などに取り組んでいくとともに、日々進化するデジタル技術などを活用し、
新しいコミュニケーションの形を生み出していきます。

デジタル技術などの活用

展示会やイベントの場を活用し、
AIが手話や音声をテキストに変換する技術などの開発や
社会への普及を促進します。

情報保障の充実

誰もが同じ情報を得られるよう、
サイネージやQRコードなど、様々な方法で情報を提供します。
手話の普及・拡大に取り組みます。

誰にでも伝わるコミュニケーション

誰でもわかりやすくコミュニケーションをとれる
「やさしい日本語」を活用します。

【様々な技術が生まれています】



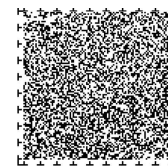
○音声翻訳表示ディスプレイの例
・音声を透明ディスプレイ上で
多言語で文字化して表示



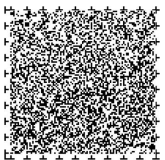
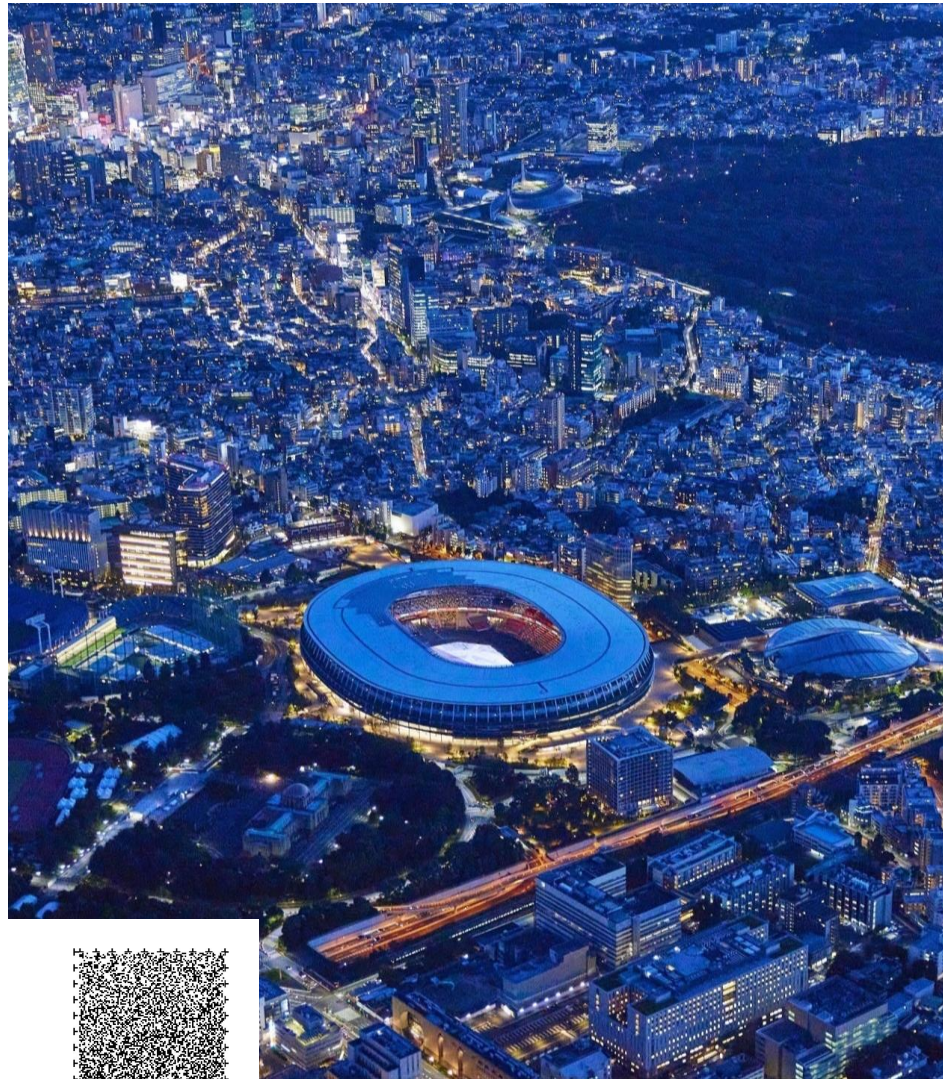
国際手話「ありがとう」



○QRナビゲーションシステムの例
・駅構内の点字ブロックに表示した
QRコードをアプリで読み取ることで、
音声で目的地まで案内



2 世界の人々が 出会う



世界が夢中な東京へ。

Tokyo Tokyo Old meets New

Tokyo breathes with the tradition of four hundred years since the Edo period.
It's a city that never stops and embraces the future.
Tradition and innovation meet and evolve to create new value here in Tokyo.
Old meets New It's the energy and excitement of Tokyo.
Experience the surprises that start here.

江戸から続く400年の伝統が、今も息づく街、東京。
常に進化を止めず、未来に向かって革新し続ける街、東京。
伝統と革新、2つの東京は出会い、ひとつにとけ合い、
今日も新しい価値を生み出していく。
Old meets New、それが東京の活力、面白さ。
東京が世界に届けるたくさんのサプライズは、
すべてここから生まれる。

外国人旅行者が東京滞在中に行った活動

- 1位 日本食を楽しむ
- 2位 日用雑貨等のショッピング
- 3位 高層ビル等の探索
- 4位 服・服飾雑貨のショッピング
- 5位 伝統建築の見学

※東京都産業労働局による調査

Tips

何度でも訪れたいくなるTOKYOへ

伝統と革新が共存する街・東京を発信し、世界との絆を深める

東京は、様々な文化が生まれる、活力にあふれた街です。
おもてなしの心や芸術文化、食、観光など、
東京の魅力を感じてもらい、世界との絆を深めていきます。

街全体でおもてなし

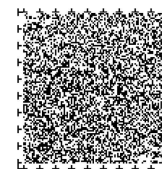
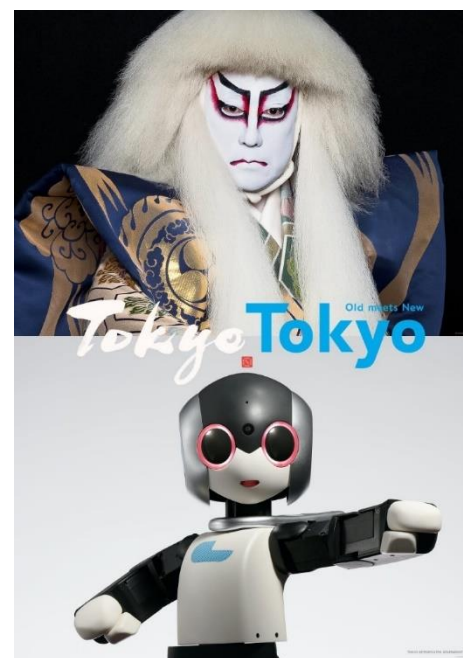
様々な競技施設や整備された交通網、
ボランティアやスタッフによりおもてなしの心を伝えます。

芸術文化に触れ、感じる

誰もが芸術文化の魅力に触れることができる
文化プログラムを展開します。

東京の魅力をPR

東京産の魅力あふれる食材を大会関連イベントで活用します。
都内の観光スポットなどの情報を発信します。

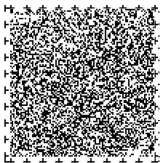


3 こどもたちが ゆめ 夢をみる



ひとつしか
ないだからもの
ぼくじしん
デフすいせい玉造 珠宇

たまつくりしゅう
小学3年生・玉造 珠宇選手の俳句
(令和4年度 東京ゆかりパラアスリート)



スポーツ事業に参加した都内高校生の声

- (日米対抗ソフトボールを観戦し、チームと交流して)
- ・試合を見て学んだことを取り入れ、向上させていきたい。
- ・選手たちと交流し、自分の夢が大きく広がった。

Tips

夢と希望にあふれた次世代の東京へ 子供たちがスポーツから多くを学び、多様な価値観を育む

限界に挑戦するアスリートの姿は、
時に人生を変えるほどの感動を子供たちに届けます。
明日をつくる子供たちが、大会を通じて夢と希望に触れ、
学び、成長することをサポートしていきます。

大会ならではの経験で、新たな視野を広げる

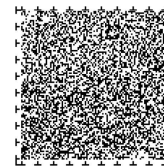
臨場感あふれる、会場での観戦機会を
都内や被災地の子供たちに提供します。
競技会場のバックヤードを見学するツアーを開催します。

大会の一員として活躍し、自信や勇気をつちかう

子供たちが、エスコートキッズやメダルプレゼンターなど、
大会にとって大切な役割をつとめます。

スポーツの素晴らしさを感じる

大会関連イベントにおいて、
競技体験や親子参加型コンテンツを企画します。
トップアスリートが学校を訪問します。



4 ^み ^{らい} 未来へ つなぐ



*Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development
Department of Economic and Social Affairs (un.org)37.*

Sport is also an important enabler of sustainable development.

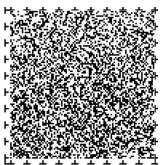
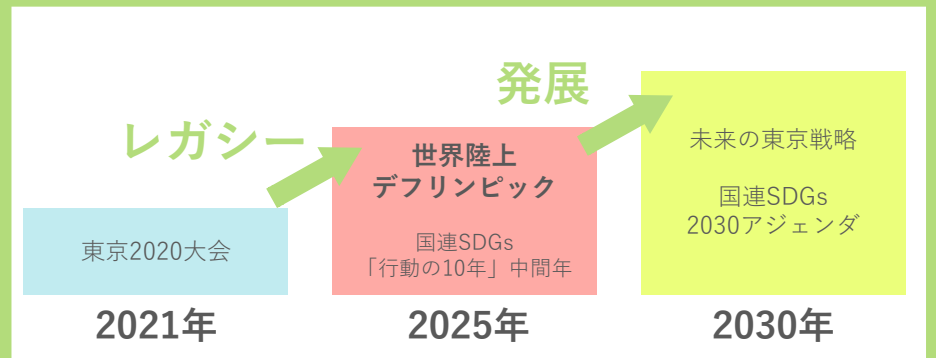
スポーツもまた、持続可能な開発における重要な鍵となるものである。

『我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ』(37)
(2015年9月25日第70回国連総会で採択)

出典：国連広報センター、外務省HP

Tips

2030年 未来の東京実現に向けて



たくさんの国際スポーツ大会が楽しめる街へ 世界陸上・デフリンピックを未来につなげる大会に

気候変動、海や陸の豊かさを守ること、ジェンダー平等の実現、人や国の不平等をなくすことなどは、世界が直面する重要な課題です。世界の人々が、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた努力をしています。大会を通じて、互いの違いを認め、尊重しあう社会づくりに貢献します。

共生社会の大切さを学ぶ

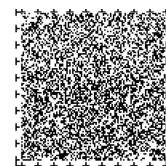
大会関連イベントや学校など様々な場所で、人権や多様性について考える機会をつくります。

シンプルな大会モデル

競技第一のコンパクトな日程とします。もともとある施設や物品をできるだけ活用します。

環境への配慮

省エネの徹底、再生可能エネルギーの活用、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進に取り組みます。



5 みんなで 創る



世界陸上オレゴン22大会（アメリカ）

“It was through the support of so many people and organizations that this truly was the Best of all Worlds, and we couldn't be prouder of the success of these World Championships.”

こんなに多くの方々と団体からのサポートを得て、本当に世界のベストが実現できました。この世界陸上の成功をこの上なく誇りに思います。

— Sarah Massey

（サラ・マッセイ／世界陸上オレゴン22組織委員会CEO）

* 世界陸上オレゴン22大会を振り返って

The many memories we made together are such gracious and in the past days I thought back were we laughed, cried, discussed, fought, worked, analyzed, ate, drove and celebrated together.

共に創った多くの記憶は本当に素敵で、思い返すと皆で笑い、泣き、議論し、戦い、働き、分析し、食べ、移動し、祝いました。

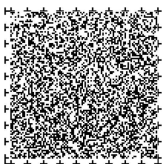
— Katrin Neudolt

（カトリン・ノイドルト／国際ろう者スポーツ委員会・アスリート委員会委員長）

* カシアス・ド・スル2021デフリンピック大会を振り返って



サムスン2017デフリンピック大会（トルコ）



スポーツを通じてつながる街・東京へ 誰もが分けへだてなくスポーツを楽しむ

世界中から様々な人々が集まる2025年に向け、
みんなで力をあわせて、「私たちの大会」を創ることを通じて、
人々のつながりをより深いものとしていきます。

多様な視点・当事者の目線を大切にする

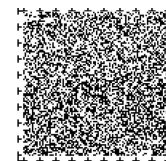
トップアスリートが競技に集中できる環境をつくります。
障害のある方と障害のない方が、一緒に大会の計画を考えます。
デフリンピック教材を、ろう者と子供たちが参加してつくります。

世界最高峰のスポーツ大会を形作る

国籍や年齢などに関わらず、様々な人々が
現場運営、ウェブサイト記事作成、会場装飾などで活躍します。
最新の技術を活用し、重度障害などがある方も参画できる機会を提供します。

「人」に光を当てたストーリーを語る

大会を支える人々の努力を、ウェブサイトで発信します。
アスリート、障害のある子供、障害のない子供が、
一緒にスポーツを楽しむ機会を増やします。

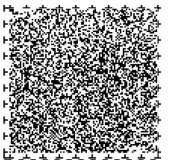


ビジョン2025 スポーツが広げる新しいフィールド 全ての人が輝くインクルーシブな街・東京へ



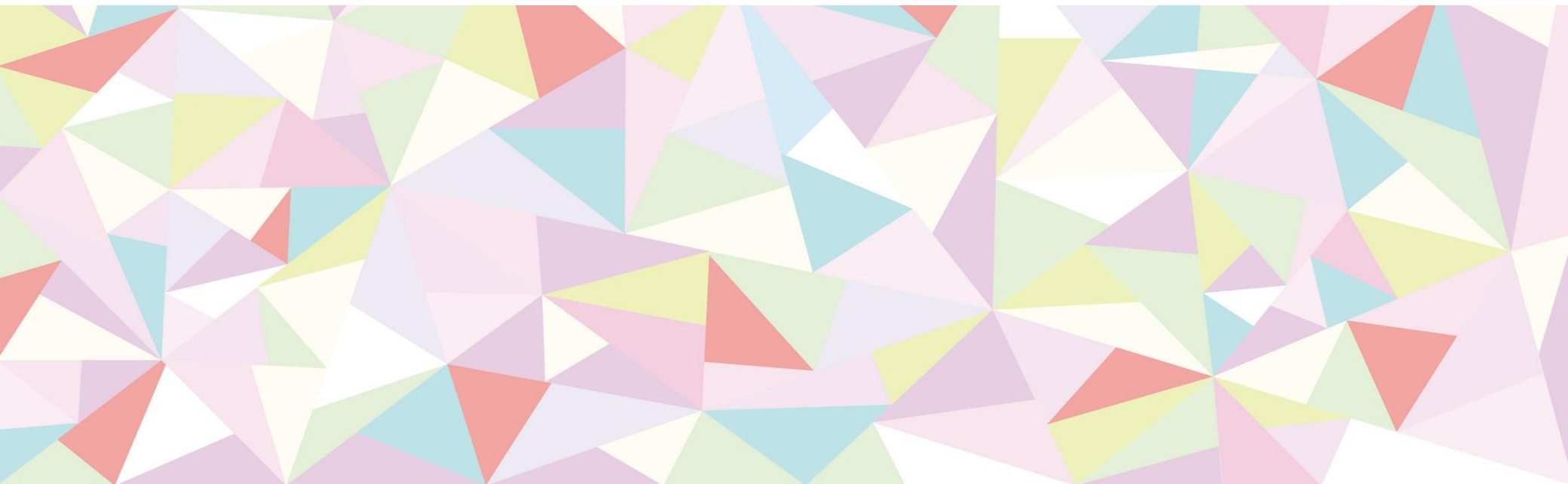
令和5（2023）年2月発行

編集・発行 東京都生活文化スポーツ局スポーツ総合推進部企画調整課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03(5388)3799
E-mail S1120701@section.metro.tokyo.jp

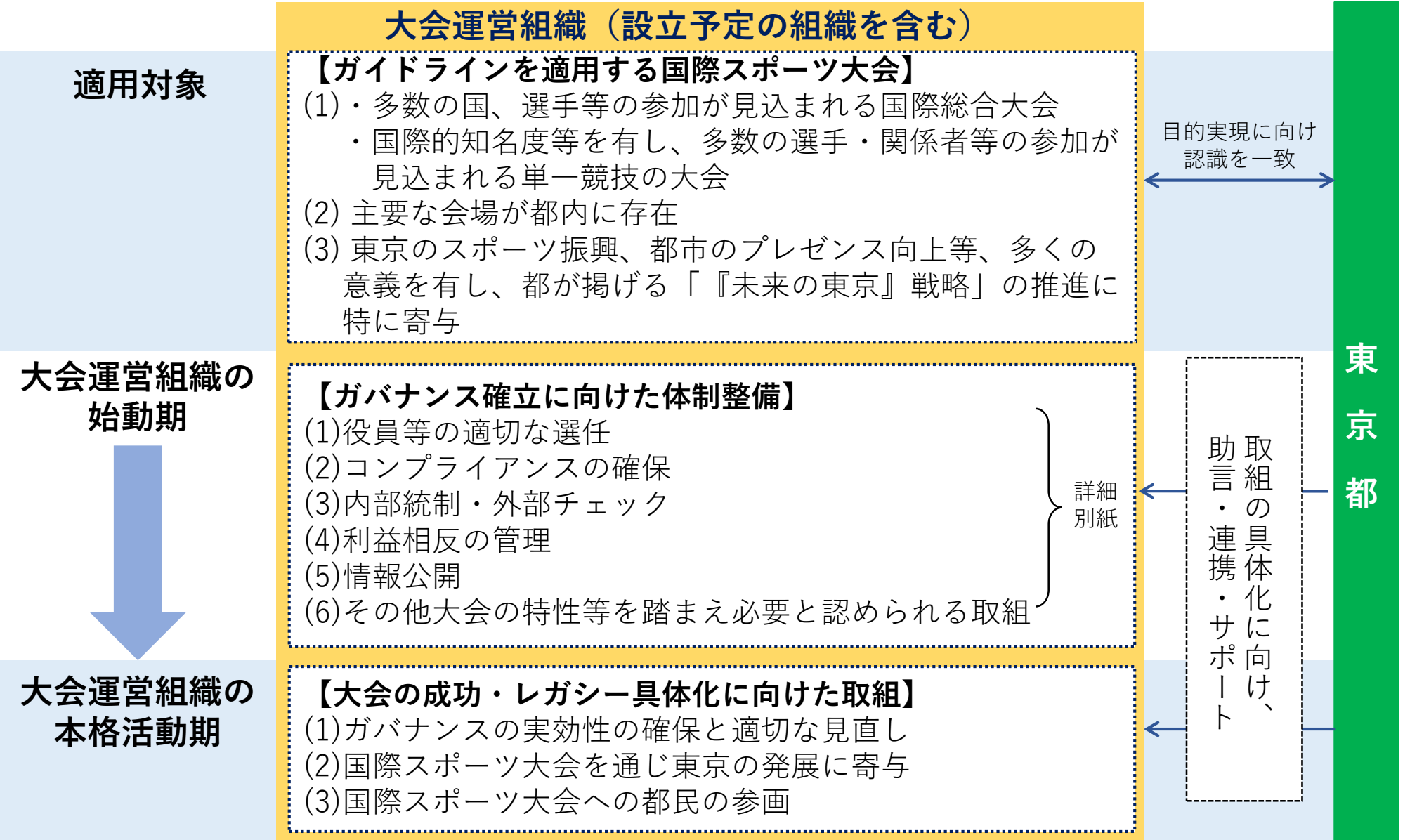




TOKYO FORWARD 2025
世界陸上 デフリンピック



「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」概要



大会運営組織のガバナンス確立に向けた体制整備

項目	考え方と具体的取組例
①役員等の適切な選任	<p>○理事等が組織全体の運営改善に不断に取り組むとともにその権限を適切に行使できるように適切に体制整備を行うことが重要</p> <p>◀取組例▶ ・役員等選考委員会を設置、選任方針を策定 ・役員等の行動規範の策定や就任時の誓約</p>
②コンプライアンスの確保	<p>○コンプライアンス確保に必要な体制整備に加え、役員や職員のコンプライアンスに係る知識の習得や意識啓発が重要</p> <p>◀取組例▶ ・コンプライアンス委員会を設置、監事等と情報共有 ・通報しやすい仕組みを備えた通報窓口を設置 ・当初から役員・職員へのコンプライアンス教育を継続的に実施 ・風通しの良い組織風土形成に向けた意識啓発</p>
③内部統制・外部チェック	<p>○公正妥当と認められる会計の原則にのっとった会計処理を行うことが重要</p> <p>◀取組例▶ ・収入・支出のプロセス等を事前及び事後に監督する契約・調達管理委員会を設置 ・内部監査部門を主として、監事・会計監査人との連携体制を構築</p>
④利益相反の管理	<p>○利益相反取引の管理は、法令上の遵守事項でもあり、組織の利益を損なうことを防ぐために重要</p> <p>◀取組例▶ ・利益相反の該当性をチェックする仕組みを構築 ・出向者が契約等にかかわる場合の規制や、権限・責任を明確化</p>
⑤情報公開	<p>○大会運営組織の開示する情報が都民との信頼関係を醸成するために重要</p> <p>◀取組例▶ ・法定事項に加え、組織の重要な決定や世の中の関心の高い事項を積極的に発信 ・非公開情報は、情報公開とは別の方法で、公正性を担保できる仕組みを構築し、非公開の理由を含め考え方を丁寧に説明</p>

国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン

4 生推企 952 号

令和4年12月26日

第1 本ガイドラインの目的

国際スポーツ大会の開催は、世界のトップアスリートの競技を目の当たりにすることにより、多くの都民、とりわけ次世代を担う子供たちに、スポーツのすばらしさや大きな感動を与え、夢や希望を抱かせる。

東京2020大会は、年齢や障害等を越えたアスリートの輝きによる共生社会の実感やバリアフリー化をはじめとするまちや暮らしの変化など多くのレガシーをもたらした。

国際スポーツ大会を機に、世界中のアスリートをはじめとする大会関係者や観客が東京を訪れ、国籍・文化・世代・障害など多様な背景をもつ人々が交流することは、国際親善・平和などに大きく寄与することはもとより、東京の活性化や都市としてのプレゼンス向上にもつながる。

国際スポーツ大会を通じ、スポーツの力によって東京の未来を創っていくには、東京2020大会の経験も踏まえ、より良い大会の姿を追求していかなければならない。

本ガイドラインは、こうした観点に立って、国際スポーツ大会の準備運營業務を担う組織（設立予定の組織を含む。以下「大会運営組織」という。）に対する都の関与のあり方について基本的な事項を定める。

大会運営組織が、スポーツの根幹であるフェアネスを体現した信頼されるものとなり、未来の東京につながるレガシーを残していくとともに、都民と共に大会を作り上げ、大会開催の意義が社会に敷衍していくよう、都として関与していく。

第2 本ガイドラインを適用する国際スポーツ大会

1 本ガイドラインを適用する国際スポーツ大会は、以下の全ての要件を満たすもののうち、都と大会運営組織が協議を行い、第1に掲げる目的の実現に向けて認識を一にした大会をいう。

- (1) 国際総合スポーツ大会においては、多数の国と地域、選手・関係者等の参加が見込まれるもの。単一競技の大会にあっては、国際的な知名度等を有し、多数の選手・関係者等の参加が見込まれるもの
- (2) 主要な会場が、都内に存在するもの
- (3) 東京のスポーツ振興及び都市のプレゼンス向上、賑わい創出に資すると期待されるなど、多くの意義を有し、国際スポーツ大会の準備・開催を通じて都が掲げる「『未来の東京』戦略」の推進に特に寄与する(SDGsの実現、DX活用等)と見込まれるもの

第3 これからの国際スポーツ大会における3要素（基本的な考え方）

第1で掲げる目的を達成するため、本ガイドラインの策定に当たっては以下の3点を基本とする。

1 適切なガバナンスの確保

大会運営組織は、スポーツの根幹であるフェアネスを体現し、法令及び社会規範の遵守、意思決定の公正性の確保等を図るため、適切なガバナンス体制を構築する。

都は、大会運営組織に対して、コンプライアンスや情報公開等、ガバナンス確保に必要な助言を行うとともに、その取組状況を確認する。

2 国際スポーツ大会を通じ東京の発展に寄与

大会運営組織は、東京2020大会で生み出されたレガシーを国際スポーツ大会を通じて更に発展させていくとともに、未来の東京につながるレガシーを残していく。

都は、大会運営組織に対してこうした視点を盛り込んだ開催ビジョンの策定を求めるとともに、都からも国際スポーツ大会を通じて目指す東京の未来についてのビジョンを大会運営組織に共有する。

3 都民と共に大会を作り上げていくため参画機会を確保

大会運営組織は、都民と共に大会を成功させていくことを基本とし、あわせて、大会が、年齢、障害の有無などに関わらず、都民誰もがスポーツの力を実感し、大会開催の意義が社会に広まっていくよう、大会への参画を推進する。

都は、大会運営組織に対してこうした視点を盛り込んだ開催ビジョンの策定を求めるとともに、東京 2020 大会の経験を踏まえた都民参画の機会創出に取り組む。

第4 大会運営組織への都の関与

第3で示した3要素に沿った、大会運営組織の主体的な運営に対して、都は、以下のように関与する。

1 大会運営組織の始動期（組織設立時等）における着眼点と具体例

(1) 適切なガバナンスの確保に向けた体制整備

都は、競技数や規模、運営主体の国際大会の経験など、それぞれの国際スポーツ大会の特性等に応じ、必要な助言を行うとともに、次の①から⑥までに記載する取組について、大会運営組織と連携しながら具体化を図っていく。

① 大会運営組織における適切な役員等の選任と体制整備

《考え方》

組織運営上の重要な意思決定や業務執行に係る権限を有する理事等が、組織全体の運営改善に不断に取り組むとともに、その権限を適切に行使できるように適切な体制整備を行うことが重要である。

《取組例》

- (ア) 外部専門家を含む、多様な委員で構成された役員等選考委員会設置
- (イ) 外部理事・女性理事の目標割合、各役員の役割などを定めた、役員等の選任を行うための方針（役員等選任方針）の策定
- (ウ) 各理事等が風通しの良い組織風土の形成やリスク管理などの基本的役割、職責、関係法令等を認識するような、行動規範の策定及び就任時の誓約書の提出

(エ) 機動的な業務執行の視点に立った理事会等の適正な規模を検討 など

② 継続してコンプライアンスを確保するための仕組みの整備

《考え方》

コンプライアンスの確保は、ガバナンスの基盤となるものである。コンプライアンスを確保していくためには、コンプライアンス委員会の設置等による体制整備に加え、組織に関わる役職員等が、コンプライアンスに係る知識を習得するとともに、風通しの良い組織風土の形成を通じてその実効性を高めるなどの意識啓発が重要である

《取組例》

- (ア) コンプライアンス委員会を組織内に設置
- (イ) コンプライアンス委員会と監事等の中で相互に適切な情報共有が行える体制の構築
- (ウ) 就任時・採用時を含む役職員等への継続的なコンプライアンス教育や職場における意識啓発に向けた取組の実施
- (エ) 通報者の保護に配慮し、通報しやすい仕組みを備えた内部・外部の窓口設置 など

③ 適切な計画・予算・契約・調達についての内部統制・外部チェックの仕組みの構築

《考え方》

国際スポーツ大会は、大きな社会的影響力を有する、公共性の高いものであり、また多くのステークホルダーから協賛金、寄附金等の資金も受領して活動しており、その資金を管理する大会運営組織のガバナンスの整備においては、公正妥当と認められる会計の原則にのっとりた会計処理を行うことが重要である。

《取組例》

- (ア) 契約・調達制度の構築

- (イ) 契約と調達を、収入・支出の両面において事前・事後に内容・プロセス等を監督する、外部の専門家を含む契約・調達管理委員会を設置
- (ウ) 内部監査、監事監査、会計監査人監査の連携による「三様監査体制」の構築（特に内部監査部門と監事・会計監査人が連携できる仕組みの構築） など

④ 利益相反を管理する仕組みの構築

《考え方》

利益相反取引の管理は、法令上求められる遵守事項でもあり、組織の利益を損なうことを防ぐためには、大会運営組織のガバナンス上、重要である。

《取組例》

- (ア) 国際スポーツ大会の特性等を踏まえた利益相反取引に関する規程の制定。特に、大会運営組織への出向について、利益相反取引の適切な該当範囲を定めた上で、各分野における高度な専門性を有する出向者に関し、契約等における規制の実施や権限・責任を明確化
- (イ) 利益相反の該当性をチェックできる仕組みの構築
- (ウ) 利益相反取引に関し、役職員への継続的な教育や取引の適正性を管理できる仕組みの構築 など

⑤ 情報公開の仕組みの構築

《考え方》

都が関与する国際スポーツ大会は、大きな社会的影響力を有する、公共性の高いものであると考えられる。その大会運営組織が開示する情報は、都民との信頼関係を醸成するために、重要である。

《取組例》

- (ア) 法定事項に加え、理事会の意思決定プロセス等、組織の重要な決定や世の中の関心の高い事項に関する、積極的な情報発信

- (イ) 公開を基本としつつ、非公開とする必要がある情報については、その理由を含め考え方を丁寧に説明
- (ウ) 非公開情報についても、情報公開とは別の方法で、その公正性を担保できる仕組みを構築 など

⑥ その他大会の特性等を踏まえ必要と認められる取組

2 大会運営組織の本格活動時における着眼点と具体例

(1) ガバナンスの実効性の確保と適切な見直し

都は、大会運営組織の主体的な運営が適正かつ効率的なものとなるよう、次の事項を行う。

- ① 第4の1(1)に記載されている事項の運用状況について必要な確認を行うとともに、状況を踏まえた適切な見直しが定期的に行われるために必要な報告の聴取及び助言
- ② その他国際スポーツ大会の特性等を踏まえ必要と認められる事項

《考え方》

大会運営組織は、適切なガバナンス体制を構築した後も、それが十分に機能しているか、必要以上に非効率な業務プロセスが生じていないか確認し、柔軟に見直していくことが重要である。

都は、その見直しに関して、必要な助言を行う。

《取組例》

- (ア) 予算・契約・調達のチェックを行う基準を定めるとともに、効率的なチェックを確保するため、当該基準は実情に応じて定期的に見直しを実施

(2) 国際スポーツ大会を通じ東京の発展に寄与

都及び大会運営組織は、国際スポーツ大会の開催を通じてレガシーを創出し、東京の発展につなげていくため、次の事項について双方で事前に協議の上、具体化を図る。

- ① 国際スポーツ大会の基本計画、開催ビジョン等の策定、都と連携した事業の実施、大会実施を阻害するリスクの管理計画、他大会運営上の重要事項

② その他国際スポーツ大会の特性等を踏まえ必要と認められる事項

《考え方》

東京 2020 大会のレガシーを継承しつつ、国際スポーツ大会を通じて、共生社会の実現や持続可能性への配慮、都市の魅力発信による東京の国際プレゼンスの向上等、大会をより良い東京の未来につなげていく。

《取組例》

- (ア) 最新のコミュニケーション・テクノロジーの活用
- (イ) 3R（リデュース・リユース・リサイクル）など、持続可能性への配慮
- (ウ) 都との連携による文化・観光等PR

(3) 国際スポーツ大会への都民の参画

都及び大会運営組織は、国際スポーツ大会への都民の参画に向けて行う取組を推進するため、次の事項を行う。

① 都民が参画できる取組を行うに当たっての企画及び実現に向けた連携

② その他国際スポーツ大会の特性等を踏まえ必要と認められる事項

《考え方》

年齢、障害の有無などに関わらず、誰もがスポーツの力を実感し、大会開催の意義が社会に広まっていくよう、大会への都民の参画を促進することが重要である。

《取組例》

- (ア) 子供たちとアスリートとの交流
- (イ) デジタル技術を活用した多様な観戦スタイル
- (ウ) ボランティアの活躍 など

(4) 大会運営に係るサポート等

① 国際スポーツ大会は、競技数や規模、運営主体の経験などが異なることから、都はそれぞれの大会の特性等に応じたサポートを行うことができる。なお、サポートを適切に実施するため、大会運営組織との間に必要な事項を記載した協定を締結するものとする。

- (ア) 都は、第4の1(1)及び2(1)により大会運営組織において適正かつ効率的な運営が確保されることを前提に、大会運営組織からの求めにより、人的・財政的支援等を通じ、大会規模や態様等に応じて必要となるサポートを行うことができる。特に財政支出を行う場合、大会運営組織に対し、都と大会運営組織が共同でチェックを行う仕組みを整備するものとする。
 - (イ) 都が必要なサポートを行う場合においては、定期的に業務運営状況の報告を求めるものとする。また、必要と認められる場合には、大会運営組織に対して、大会準備状況や収支等に関する報告を求めるとともに、必要に応じて是正を求めることとする。
 - (ウ) その他、サポート内容も踏まえ、組織運営や事務執行の適正性の確認など、必要な対応を行うものとする。
- ② 本ガイドラインの実効性を担保するためには、文書の適切な保管・承継が重要であることから、大会運営組織は、必要な措置を行うとともに、都は助言を行う。

附則

(施行日)

- 1 このガイドラインは、令和4年12月26日から施行する。
(第2の1に該当しない国際スポーツ大会への準用)
- 2 ガイドライン第2の1に該当しない大会についても、ガイドラインの趣旨を踏まえた対応を工夫する。

東京2020大会の会場となった各施設が再開業を迎えるとともに、アーバンスポーツやパラスポーツ等、大会のレガシーを活かした施設が誕生

◎新規恒久施設

施設名	令和4年度の活用実績
<p>夢の島公園アーチェリー場 〈R3.10.31(日)再開業〉</p>	<p>【アーチェリー競技利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全日本ターゲットアーチェリー選手権大会 初心者アーチェリー競技会 <p>【多様なスポーツ利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京都リーグ（フライングディスク）など <p>【多目的な施設活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> SHINYA KOZUKA ファッションショー 水鉄砲大会 周辺施設と連携したスタンプラリー など <div data-bbox="1437 516 1690 688" data-label="Image"> </div> <p>(フライングディスク利用)</p> <div data-bbox="1711 382 1984 559" data-label="Image"> </div> <p>(アーチェリー競技大会)</p> <div data-bbox="1711 608 1984 779" data-label="Image"> </div> <p>(ファッションショー)</p>
<p>海の森水上競技場 〈R4.4.29(金)再開業〉</p>	<p>【水上スポーツ利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ボート全日本選手権大会 東京・海の森トライアスロン2022 国民体育大会関東ブロック大会カヌー ドラゴンボート海の森オープン大会 など <p>【多目的な施設活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツフェスティバル、アウトドアフェスティバル ロケ地利用（ドラマ「捜査一課長」、仮面ライダー） 音楽やグルメ、マラソン等各種イベント など <p>【周辺施設等との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海の森公園との連携（TOKYO ISLAND） など <div data-bbox="1437 916 1690 1073" data-label="Image"> </div> <p>(ボート競技大会)</p> <div data-bbox="1723 916 1984 1073" data-label="Image"> </div> <p>(スポーツフェスティバル)</p> <div data-bbox="1723 1125 1984 1302" data-label="Image"> </div> <p>(TOKYO ISLAND)</p>

施設名

令和4年度の活用実績

大井ふ頭中央海浜公園
ホッケー競技場

〈R4.6.18(土)再開業〉

【ホッケー競技利用】

- ・ WMH マスターズホッケーワールドカップ
- ・ 日本代表国際親善試合（SOMPO JAPAN CUP 2022）
- ・ 高円宮杯 2022 男女ホッケー日本リーグ・ファイナル
- ・ 全日本男子・女子ホッケー選手権大会 など

【多様なスポーツ利用】

- ・ 東日本クラブチームラクロスリーグ戦
- ・ タッチラグビー講習会
- ・ ランニング教室、パラスポーツ体験 など

【地域住民との連携】

- ・ 品川区親子deホッケー教室
- ・ 東京チャレンジホッケー教室 おおた教室 など



(ホッケー競技大会)



(タッチラグビー利用)



(地元区によるホッケーイベント)

カヌー・スラローム
センター

〈R4.7.23(土)再開業〉

【カヌー・スラローム競技利用】

- ・ 日本代表選考会
- ・ 江戸川区羽根田卓也杯
- ・ 日本選手権／NHK杯 など

【水上レジャー体験機会の提供】

- ・ 激流ラフティング
- ・ ウォーターバルーン など



(激流ラフティング)






(カヌー競技大会)





(水難救助訓練)

【多目的な施設活用】


- ・ レガシーツアー（団体旅行ツアー）
- ・ 水難救助訓練（東京消防庁航空隊／葛西消防団）
- ・ 周辺施設と連携したスタンプラリー など

施設名	令和4年度の活用実績	
<p>有明アリーナ</p> <p>〈R4.8.20(土)開業〉</p>	<p>【多様なスポーツ利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京2020パラリンピック1周年記念イベント チャレスポ！TOKYO バスケットボールB3リーグ リーグ戦 江東区「KOTO★ボッチャ小学生フレンドリーマッチ」 格闘技 車いすバスケ体験教室 など <p>【多目的な施設活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種コンサート利用 都民開放デー など 	 <p>(ボッチャ体験会)</p>  <p>(格闘技)</p>  <p>(車いすバスケ体験教室)</p>

施設名	今後の活用予定	
<p>東京アクアティクスセンター</p> <p>〈R5.4.1(土)再開業予定〉</p> <p>※R5.4.4(火)再開業 セレモニー予定</p>	<p>【水泳競技利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本選手権水泳競技大会 競泳・飛込・アーティスティックスイミング・水球 東京都障害者スポーツ大会 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会 オリンピック水泳教室 など <p>【多目的な施設活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> こども体育教室 ランニングステーションの設置 水上遊具やキッズボートを活用したイベント など 	 <p>(水泳競技大会)</p>  <p>(ランニングステーション)</p>

※ 東京アクアティクスセンターの再開業に合わせ、東京辰巳国際水泳場がR5.3.31に閉館
R7年秋頃「東京辰巳アイスアリーナ（仮称）」として開業予定

◎2020大会後に整備している施設

施設名	今後の活用予定
<p>東京都パラスポーツ トレーニングセンター</p> <p>〈R5.3.21(火)開業〉</p>	<p>【パラスポーツの競技力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 競技団体等による計画的・安定的な利用を図ることで、パラスポーツの次世代アスリートの競技力向上につなげる。 <p>【パラスポーツの普及振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰もが参加可能なパラスポーツ教室等を開催することで、障害のある人もない人もパラスポーツに親しめる場とする。 <p>※ オープニングセレモニー（3/21実施） 施設の開業を記念してテープカットや、パラリンピアンらによる競技デモンストラクション等を実施</p> 
<p>有明アーバンスポーツパーク</p> <p>R5夏 スケートボード施設の 暫定利用</p> <p>R6.3 大会レガシーゾーン 先行開業予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大会時の仮設競技施設を活用した大会レガシーゾーンをはじめ、若者に人気のある都市型スポーツの場を整備 スポーツを楽しむとともに、地域の賑わい創出に貢献する施設を併設 民間事業者の創意工夫を活かすため、PFI手法により運営  <p>※令和4年1月時点の大会レガシーゾーンイメージ</p>

- 平成31年3月、東京辰巳国際水泳場の後利用について、通年のアイスリンク施設としての整備を公表
- 令和3年9月、「東京辰巳アイスアリーナ(仮称)施設運営計画(中間まとめ)」を公表、パブリックコメントを実施
- 令和4年11月、「東京辰巳アイスアリーナ(仮称)施設運営計画」を公表

1 施設の概要

- ・所在地 東京都江東区辰巳二丁目8番10号
- ・アイスリンク（通年）施設
競技面 メインリンク(60m×30m・国際規格)、サブリンク(47m×17m)
観客席 固定3,500席 仮設1,500席
関係諸室 会議室(運営諸室)や売店等
利用想定競技：フィギュアスケート、アイスホッケー、ショートトラック、
カーリング、パラアイスホッケー、車いすカーリング

2 運営の基本方針

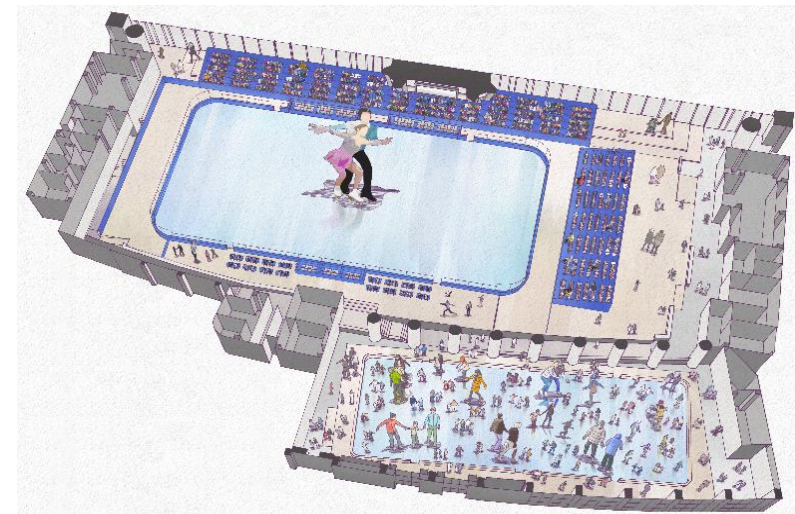
- (1) 国際・国内競技大会の会場、競技力向上の場として活用
- (2) 都民が利用しやすい氷上スポーツの場の整備
- (3) 「観るスポーツ」を促進し、地域の活力創出に貢献
- (4) 効率的な施設運営の推進

3 主な施設の構成と利用方法

- ・メインリンク：大会利用やアスリートの専用利用、一般利用、スポーツ教室、興行利用等
- ・サブリンク：アスリートの専用利用、一般利用、スポーツ教室等

4 施設利用イメージ

- ・通年リンクとして、メインリンク・サブリンクの利用者動線を分け、年間を通じて施設を有効活用
- ・大会利用等を優先し、それ以外の時間は専用利用、一般利用として運用



5 年間の利用者数の見込み

年間約28万人の延べ利用者数を想定（早朝・深夜も予約営業）

6 管理運営

- ・指定管理者制度による管理運営
- ・年間運営費(概算費用－概算収入)の試算：約1.54億円

7 施設整備

現施設の構造・設備をできる限り活用し、アイスリンク施設を整備

- ・整備費（改修費）
 - 老朽化対応、転用工事等 約59.3億円（見込み）
 - その他大型映像装置等の導入 約9.1億円（見込み）

・特徴

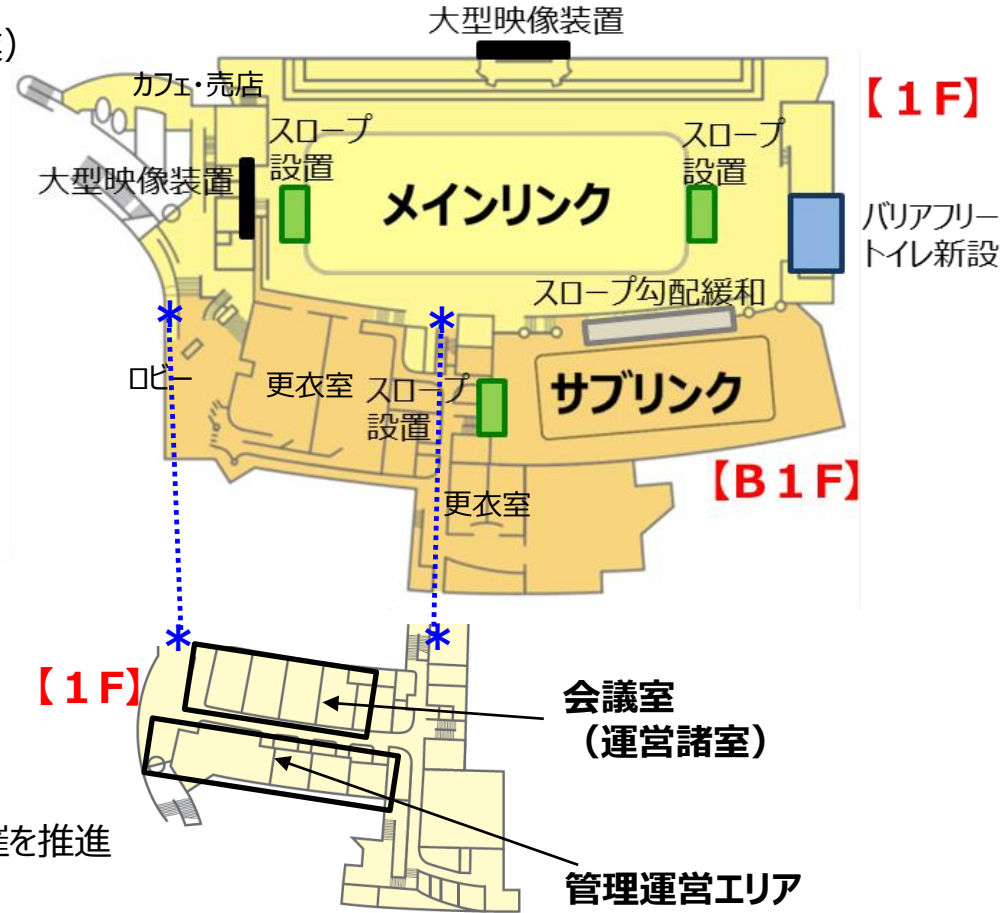
- バリアフリートイレやスロープの設置
- 環境及び省エネに配慮した製氷設備の導入
- 消費電力の少ない大型映像装置の導入

8 周辺施設等との連携・情報発信

- ・地域との連携や、周辺施設等と連携した大規模イベント等の開催を推進
- ・氷上スポーツの情報・魅力の発信

9 今後のスケジュール（予定）

- | | |
|---------|--------------------------|
| 令和5年3月末 | 東京辰巳国際水泳場閉館 |
| 令和5年4月 | 改修工事開始（東京アクアティクスセンター再開業） |
| 令和6年度 | 指定管理者募集及び決定 |
| 令和7年夏頃 | 改修工事終了 |
| 令和7年秋頃 | 開業 |



*は上下階が重なる位置を示す

新たな目標

都が発掘・育成・強化したアスリートで、新たなJPC強化指定選手・次世代育成選手※数

※JPC強化指定選手：JPC加盟競技団体が選抜する強化指定選手、次世代育成選手

「東京都スポーツ推進総合計画」・・・計画期間：2018年度から2024年度までの7年間 2024年：成果等を踏まえ検討

具体的な取組

東京2020大会での好成績を一過性のものとせず、大会に向けて構築した競技力向上施策を大会のレガシーとして活用し、国や都障協、競技団体等と連携し、トップアスリートに限らずジュニア世代等の未来のアスリートが国際舞台で活躍できる基盤を整備

➤ 競技スポーツの裾野を拡大し、競技団体や東京ゆかりアスリートを支援することで活動環境を整え、日本代表候補者を輩出

1 競技機会の拡大

○競技スポーツの体験機会を提供

○スポーツを始めたい方に役立つ情報をWebサイトで提供

○東京都障害者スポーツ大会・オープン競技の開催

○東京ゆかりアスリート等の経験を地域スポーツ推進に還元

1 競技機会の拡大

新たなJPC強化・育成

75人

(22～24年度計)

2 アスリートの育成・団体支援

2 アスリートの育成・団体支援

○競技団体の競技力向上に向けた活動を支援

○競技団体の組織基盤強化及び組織運営能力を支援

3 アスリート強化・スタッフ支援

○国際大会での活躍を目指す東京ゆかりアスリートの活動費等を支援

○アスリートを支えるコーチ・競技パートナー等スタッフの活動を支援

3 アスリート強化・スタッフ支援

概要

- 障害者の施設利用に際し、施設管理者等が配慮すべき点をまとめたマニュアルを作成し、区市町村等に普及
- 本マニュアルは、工事を伴うようなハード改修ではなく、簡易な備品購入やソフト対応などの好事例等を紹介
- 今年度、東京2020大会等を契機に進められた新たな事例を収集し改訂



全体構成

- 第1章 東京2020大会のレガシー
- 第2章 障害の理解とコミュニケーション
- 第3章 施設利用の前に
 - 初回利用・問合せ時の確認ポイント
 - 駐車場
 - 身体障害者補助犬
 - ホームページ
- 第4章 共用施設の利用
 - 受付
 - ロビー・廊下・共用スペース
 - 更衣室
 - トイレ
 - シャワー
 - 緊急時の対応
- 第5章 スポーツ施設の利用
 - 体育館
 - トレーニング室・ジム
 - プール
 - その他屋外施設
- 第6章 誰でも一緒に楽しめるスポーツ ～パラスポーツの魅力～
- 第7章 障害者差別解消法
- 第8章 地域における取組事例
- ICTの活用、Q&A、問合せ先 等

主な改訂内容

東京2020大会のレガシー

誰もが使いやすい施設を整備するために、利用者目線に立ち、当事者意見を聞くことの重要性を紹介(P4)

● 施設整備では障害のある人等の意見を反映

誰もが使いやすい施設を整備するためには、利用者目線に立ち、障害のある人の意見を聞くなどコミュニケーションをとりながら進めることが重要です。

都が整備する大会競技会場については、競技会場等に適用されるバリアフリー基準となる「Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン」を踏まえるとともに、障害者団体や学識経験者などから成る「アクセシビリティ・ワークショップ」を設置し、設計段階において車いす使用者席やトイレなど様々な項目について意見をいただきながら整備を進めました。



東京2020大会をきっかけに始めた施設でのパラスポーツの普及の取組を紹介(P7)

● パラスポーツの普及啓発



(亀戸スポーツセンター 荒川区)

東京2020大会で様々なパラスポーツが注目され、各スポーツ施設では普及啓発に関する取組が進んでいます。

亀戸スポーツセンター(江東区)では、「東京2020大会継承事業」としてポッチャを誰でも気軽に体験できるよう、受付横のロビーに「ミニポッチャ体験スペース」を設けています。

床を傷つけない工夫

スポーツ用車いすの正しい理解と認識を深めるとともに、床の適切な維持管理方法を紹介(P41)

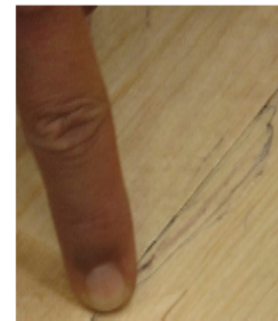
● スポーツ施設管理者向けトラブルシューティング

① プレーキ痕

専用のラパークリーナー(溶剤タイプのクリーナー)による清掃を行います。

② 凹み痕

補修方法はパレーポールやバドミントンコートの支柱を立てる金具の周囲の凹み痕と同様で、損傷度に応じた対応になり、パテによる補修を行います。補修できない場合は、ライン消し用テープによる表面を覆い、損傷が広がらないように注意します。ただし損傷の程度によっては、業者と相談し改修してください。



床の損傷を補修した様子

障害者差別解消法

対話の重要性や環境整備の事例を紹介(P54)

■ 対話の重要性

合理的配慮の提供においては、双方が建設的に対話し、合意できる方法を模索することが重要です。利用者はどのような配慮を必要としており、施設はそれにどう対応できるのかなど対話することが双方の理解につながります。



① 本マニュアルをスポーツ施設に対して広く普及

【区市町村】

- ・パラスポーツの専門知識を有するアドバイザーが助言等を実施

【区市町村・民間】

- ・障害の理解や配慮のポイント等に関する研修を実施
- ・スポーツ施設にマニュアルを配布（約2,000件）

② 各障害種別の配慮ポイントをまとめた動画を紹介



利用者本人の意思を確認して、必要であれば誘導しましょう

視覚障害者を誘導する際のポイントを動画で紹介



車いす使用者は、階段や段差があると自力では移動が困難です

段差を越える際のポイントを動画で紹介

障害のある方の身近な地域のスポーツ施設の利用を促進

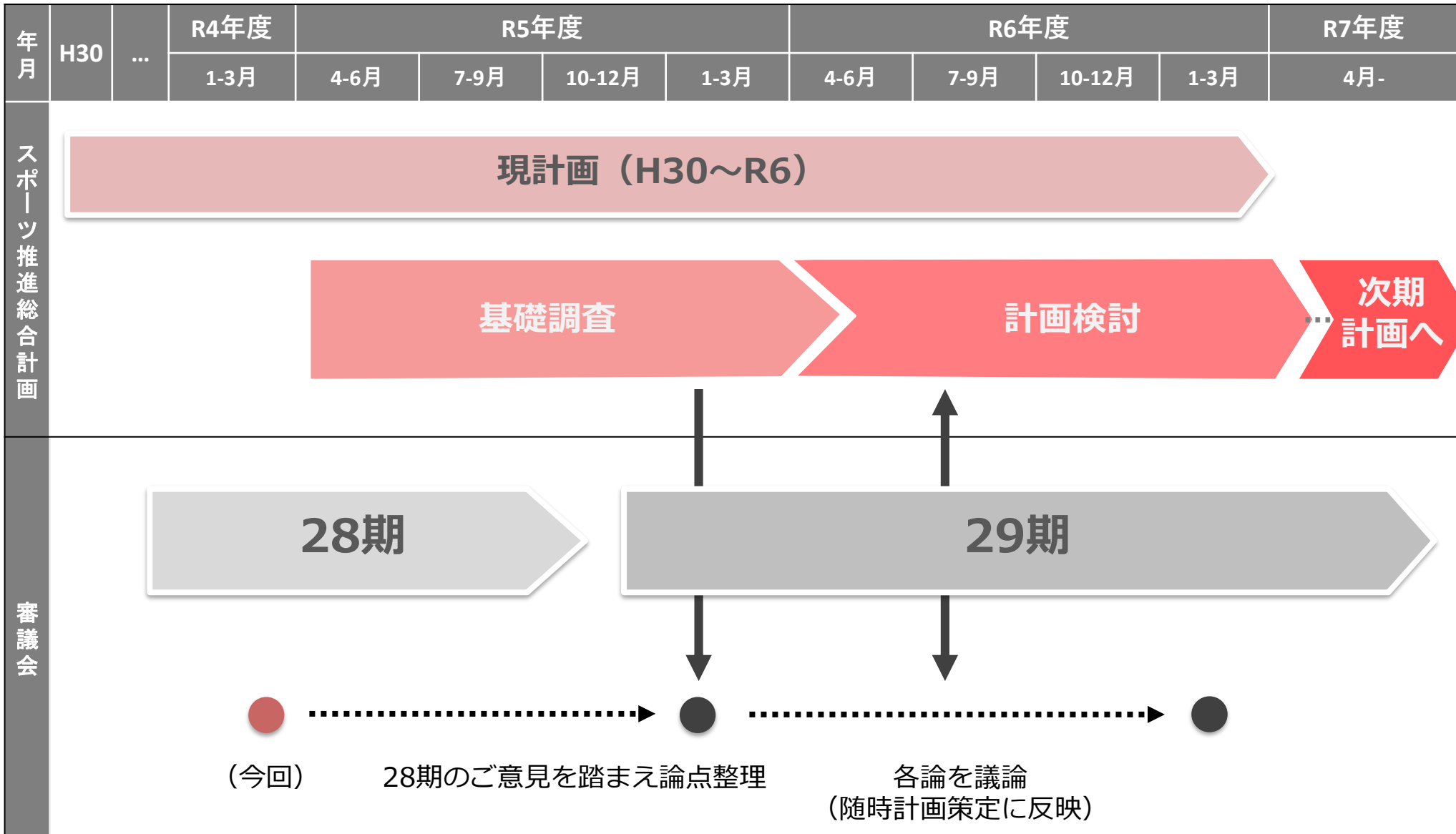
都民のスポーツ活動に関する調査結果を 踏まえた今後のスポーツ振興について

(参考1)「する・みる・支える」の視点からの今後の取組

政策目標： **健康** =健康長寿の達成、 **共生** =共生社会の実現、 **地域** =地域・経済の活性化

	主な政策指針	レガシービジョン	達成指標等の状況	R 5年度の方針性と主な取組
する	<ul style="list-style-type: none"> スポーツを身近でできる場の確保 障害の有無に関わらないスポーツ振興 東京を活性化させるスポーツイベント等の展開 	<p>1・3・4</p> <p>都立スポーツ施設の戦略的活用</p> <p>スポーツの場を東京の至る所に拡大</p> <p>パラスポーツの振興</p>	<p>都民のスポーツ実施率</p> <p>H28(計画策定時):56.3% ⇒ R4:65.9%</p> <p>障害者のスポーツ実施率</p> <p>H30:32.4% ⇒ R4:35.2%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 区市町村の取組をソフト・ハード両面から支援する等、多様な主体と連携しながら地域のスポーツ環境を拡充 身近な地域における場の確保に加え、福祉施設等日常の居場所で継続的に運動に取り組める機会を提供 <p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康 スポーツ空間バージョンアップ補助事業 新 共生 障害児・者の運動習慣定着支援事業 新 地域 都立スポーツ施設の戦略的活用 新
	<ul style="list-style-type: none"> スポーツを見る機会の創出 誰もが気軽に観戦できるスポーツ環境の整備 スポーツ観戦の魅力発信 	<p>2</p> <p>国際スポーツ大会の誘致・開催</p>	<p>直接観戦した都民割合 ※</p> <p>H28(計画策定時):39.3% ⇒ R4:35.4%</p> <p>(コロナ前の調査であるH30は41.1%)</p> <p>※直近1年間にスポーツを直接観戦した都民の割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> 都内の広い範囲においてロードレース等を実施することで、身近でアスリートの活躍に触れる観戦の機会を創出 地域密着型のプロスポーツチーム等との連携等を通じて、身近な場で気軽にスポーツ観戦ができる機会を確保 <p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康 GRAND CYCLE TOKYOの推進 拡充 共生 パラスポーツ普及啓発プロジェクト TEAM BEYOND 地域 プロスポーツチーム等との連携事業 新
支える	<ul style="list-style-type: none"> スポーツを支える人材の育成 多様なスポーツを支える基盤づくり 地域や経済の活性化に寄与した団体等の顕彰 	<p>5・6・7</p> <p>東京のアスリートの活躍</p> <p>ボランティア文化の定着</p> <p>未来へのメッセージ</p>	<p>支える活動を行った都民の割合 ※</p> <p>H28(計画策定時):13.1% ⇒ R4:14.9%</p> <p>※直近1年間にスポーツを支える活動を行った都民の割合</p> <p>スポーツ推進認定企業数 ※</p> <p>H28:128社 ⇒ R4:366社</p> <p>※「未来の東京」戦略公表時(R3.3)政策目標に設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 競技の普及、振興を支える都内競技団体に対し、ガバナンスの確保等、組織基盤強化に係る取組を支援 企業等におけるスポーツへの意欲向上に向け、従業員のスポーツ活動の促進やスポーツ支援に取り組む企業等の認定を推進 <p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康 競技団体組織基盤強化支援事業 新 地域 スポーツ推進企業認定制度

(参考2)東京都スポーツ推進総合計画に関する主なスケジュール



(参考3)基礎調査について

スポーツ推進総合計画の改定に向けた柱立てに必要な基礎的な情報を集約するため、国内外における自治体等のスポーツ施策の事例収集や、スポーツがもたらす効用に関する最新の調査研究、都のスポーツGDPなどの情報の集約・調査・分析を行う。

主な調査項目（案）

事項	内容例
1 スポーツに関する最新の研究にかか る情報収集	<ul style="list-style-type: none">・スポーツをすることや見ることによる心身への効果・影響・地域経済や地域コミュニティの活性化にもたらす効果・影響・スポーツによる環境・持続可能性への貢献(GX)・スポーツの文化的成熟 など
2 都のスポーツ環境等分析	<ul style="list-style-type: none">・東京都の最新のスポーツGDPの算出及び後年度推計 など
3 国内他自治体の好事例調査・収集	<ul style="list-style-type: none">・子供、女性、働き盛り世代、障害者、外国人、LGBTQ等の多様性を考慮し、対象ごとの先進的なスポーツ振興施策やスポーツ実施率の向上に向けた取組・デジタル技術(DX)を活用したスポーツ振興施策 など
4 海外の状況に関する調査・収集	<ul style="list-style-type: none">・スポーツが盛んな国のスポーツ実施率・国家(都市)戦略におけるスポーツの位置づけ など

1. 都民のスポーツ活動に関する実態調査

- ・ ー するスポーツ ー
- ・ ー みるスポーツ ー

2. 障害者のスポーツに関する意識調査

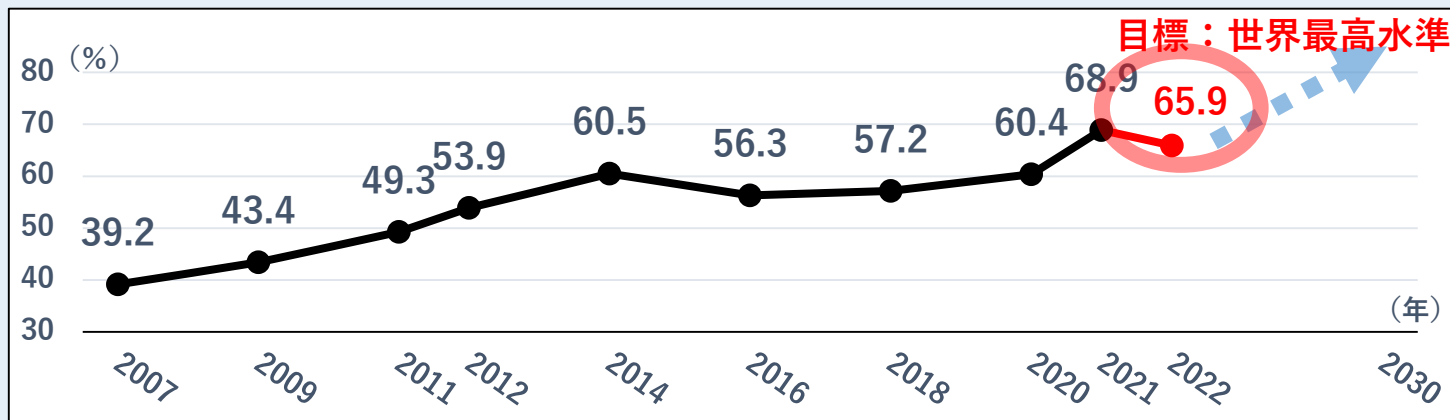
- ・ ー するスポーツ ー

1. 都民のスポーツ活動に関する実態調査

- ・ ーするスポーツー **都民のスポーツ実施率**
- ・ ーみるスポーツー **スポーツを直接観戦した都民の割合**

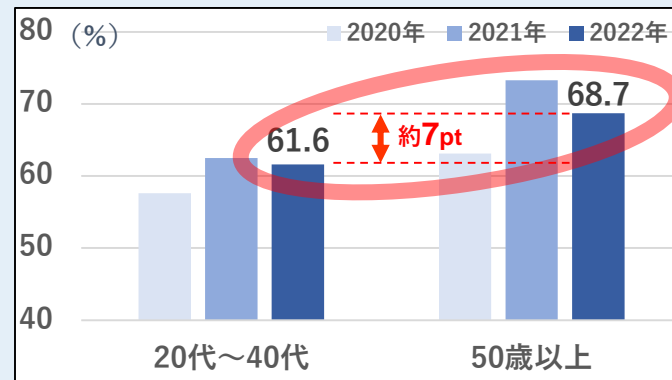
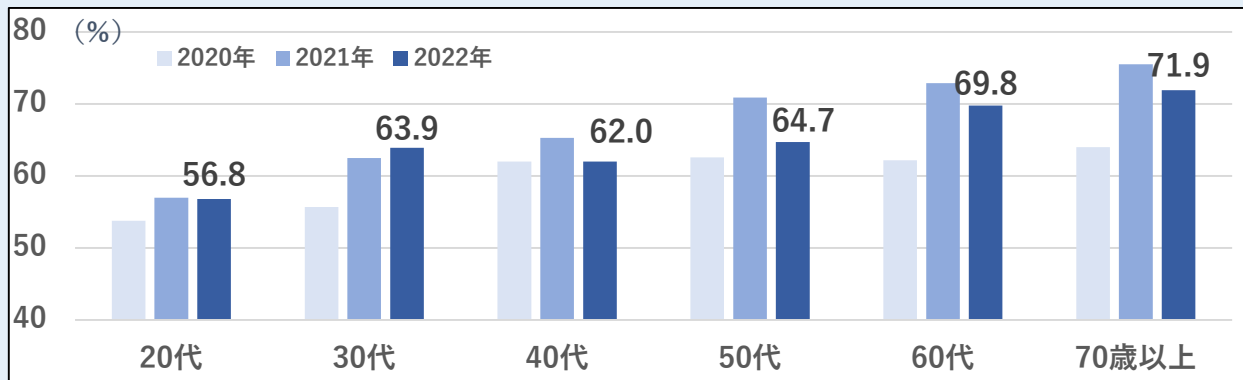
1. 都民のスポーツ活動に関する実態調査－するスポーツ－

○ 都民のスポーツ実施率の推移



(参考)実施率の高い国・都市

オーストラリア	: 80.3%
ロンドン	: 73.6%
イギリス	: 72.9%
スウェーデン	: 69%
ロサンゼルス	: 68.5%

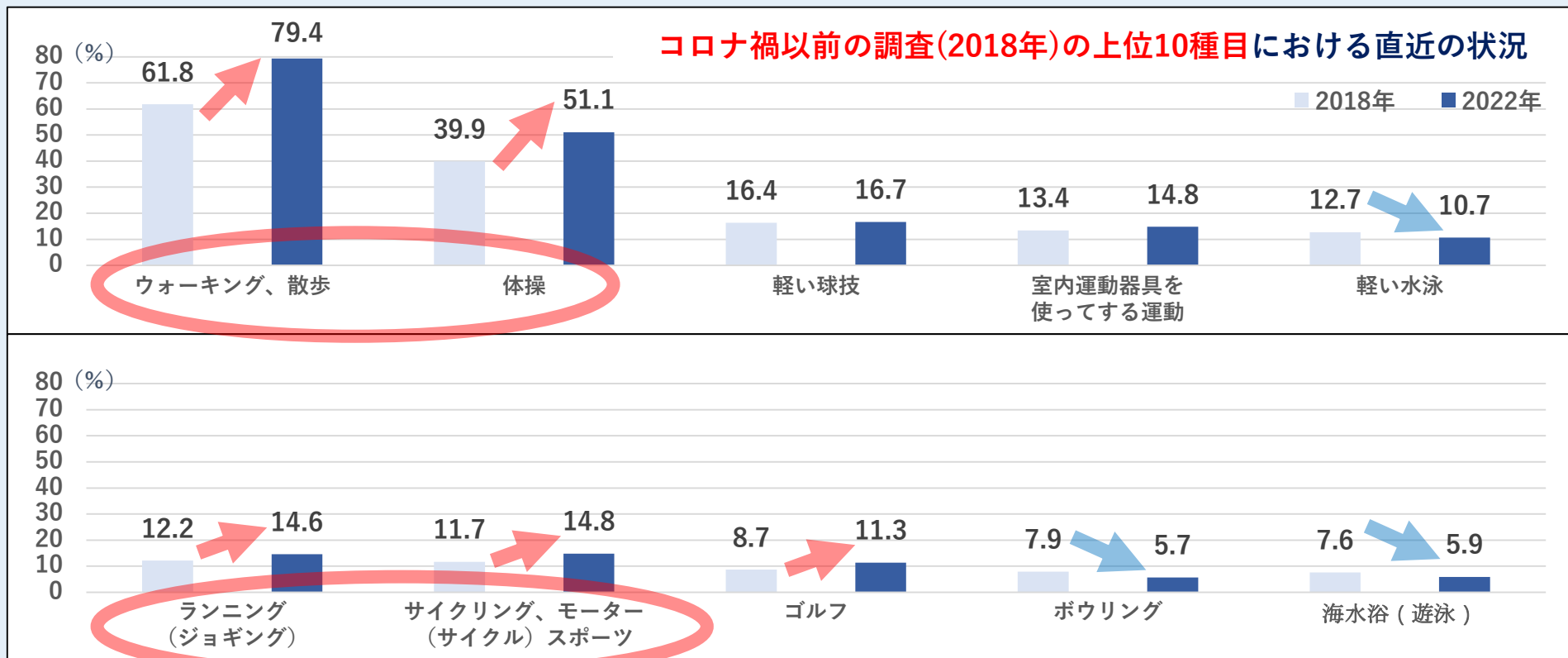


○ 2022年度のスポーツ実施率は65.9%

○ 年代に着目すると、50歳以上の実施率は68.7%である一方、20代から40代の実施率は61.6%と、約7ポイントの乖離がある

1. 都民のスポーツ活動に関する実態調査－するスポーツ－

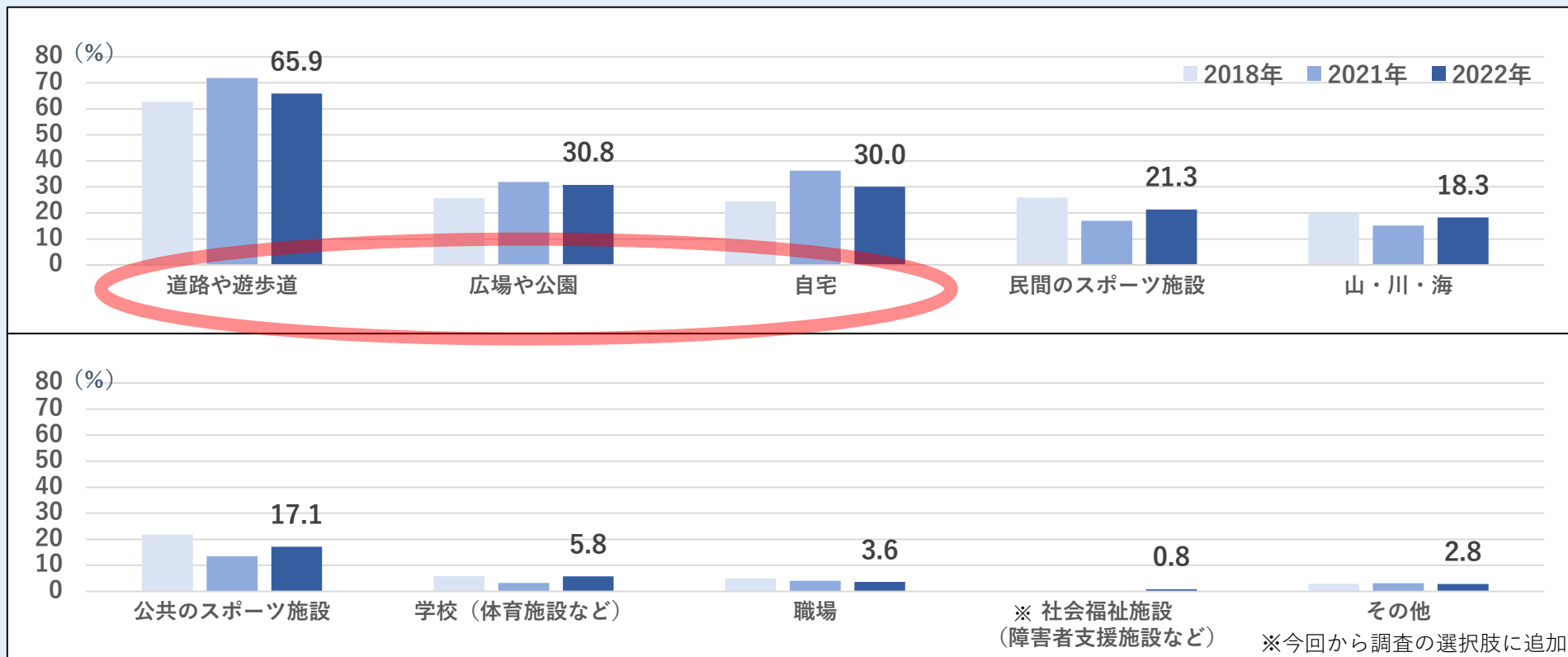
○この1年間に実施したスポーツや運動(コロナ禍以前(2018年)との比較)



○ コロナ禍以前と比較して、「ウォーキング、散歩」の約18ポイント増や、「体操」の約11ポイント増をはじめとした、誰でも身近な場所で気軽に始められる運動・スポーツの実施率が向上している。

1. 都民のスポーツ活動に関する実態調査－するスポーツ－

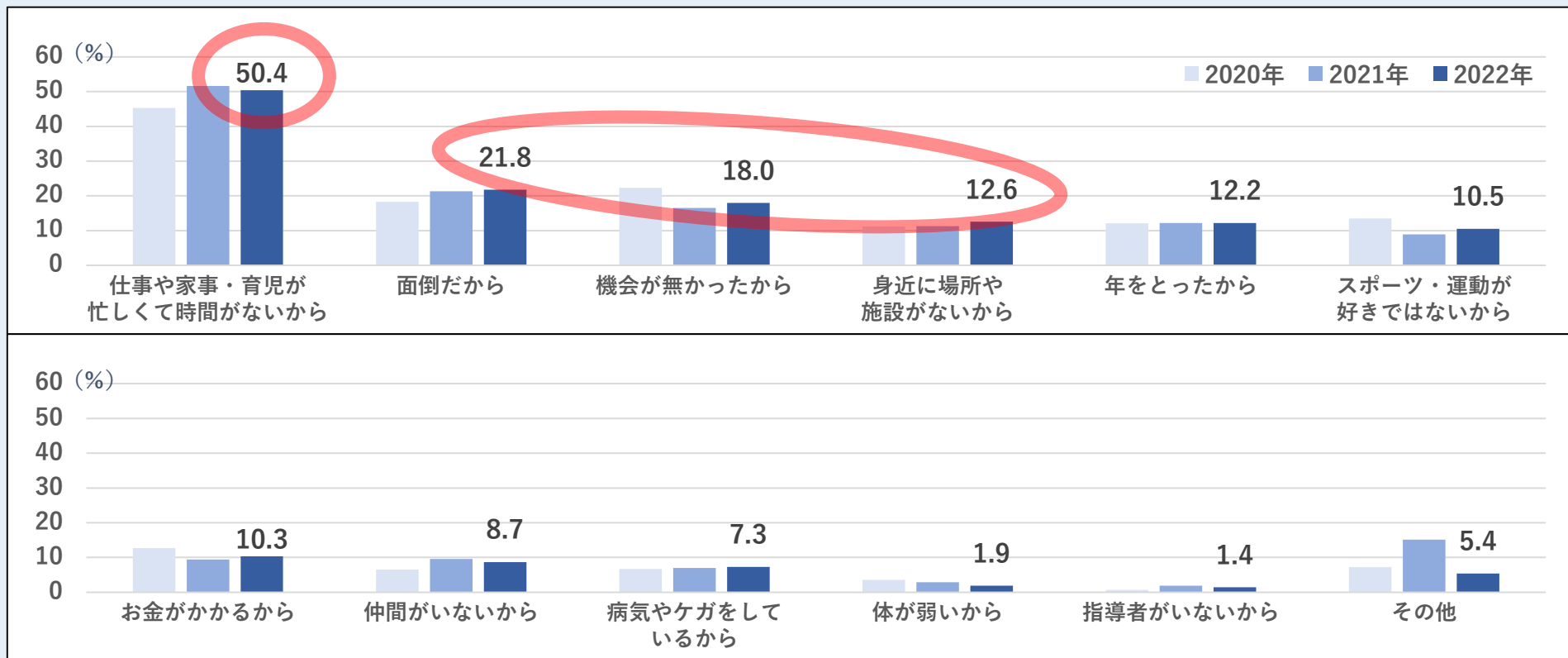
○スポーツを実施した場所



- 「道路や遊歩道」「広場や公園」「自宅」など、自身の身近な場所でスポーツに取り組む方が多い。
- 「民間・公共のスポーツ施設」や「山・川・海」については、昨年調査時よりは増加傾向であるものの、2018年の水準までは至っていない。

1. 都民のスポーツ活動に関する実態調査－するスポーツ－

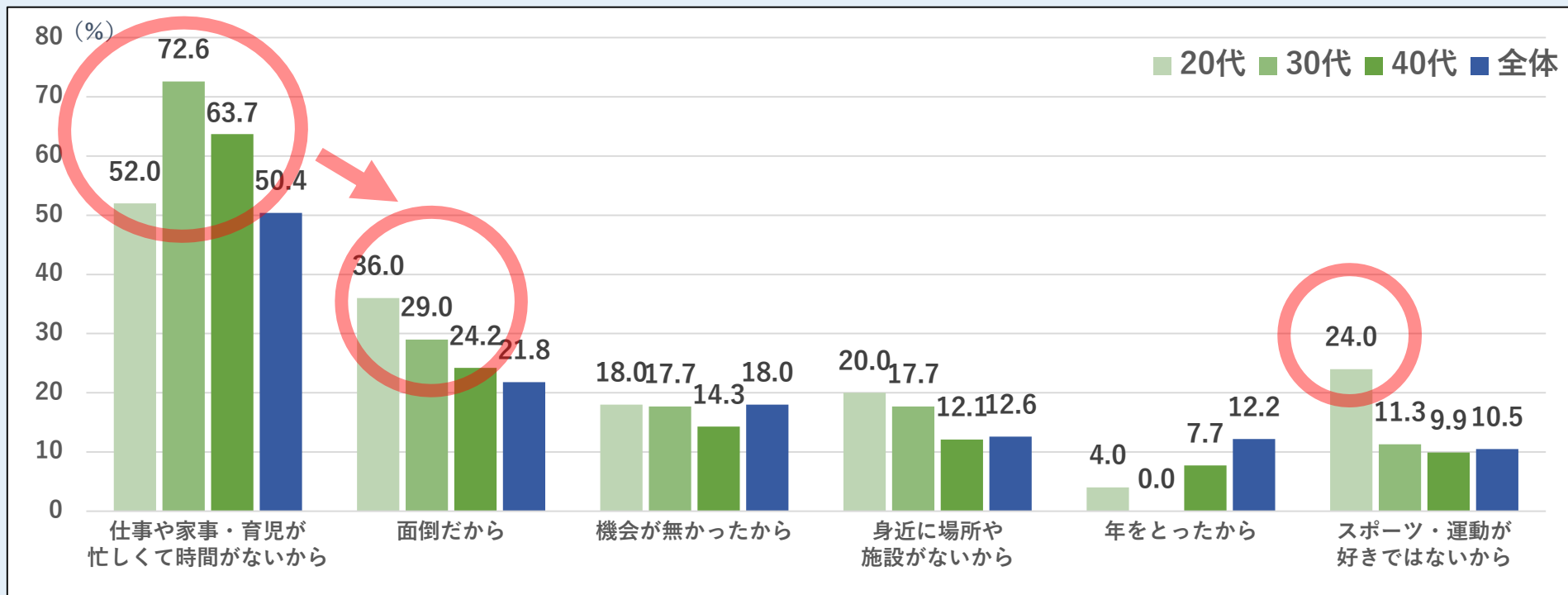
○スポーツをしなかった（実施頻度が週1回に満たなかった）理由



- 「仕事や家事が忙しくて時間がないから」が昨年に引き続き50%を超えており、「面倒だから」「機会が無かったから」「身近に場所や施設がないから」が続く
- 忙しい中でも気軽に取り組める運動や、身近にスポーツのできる場や施設を創出し運動する機会を提供していくことが重要と推察される

1. 都民のスポーツ活動に関する実態調査－するスポーツ－

○ 20代～40代がスポーツをしなかった（実施頻度が週1回に満たなかった）理由



- 20代～40代では、特に「仕事や家事・育児が忙しくて時間がない」と回答した方が多く、忙しさゆえにスポーツを「面倒」と感じる方も一定数いるものと推察。
スポーツから遠のいている方が、気軽にスポーツに触れられる機会づくりが必要
- 特に20代では「スポーツ・運動が好きではないから」と回答した方も多く、子供も含めた若年世代に対しスポーツに興味・関心を持ってもらう機会の創出が重要

1. 都民のスポーツ活動に関する実態調査－するスポーツ－

○ R5年度の取組（一部抜粋）

スポーツ空間バージョンアップ補助事業 **新規**

- ▶ 区市町村のスポーツ施設の統合・再編、改修等による**新たなスポーツ活動の場の創出**や、大規模国際大会の競技会場等の整備等に係る経費を一部を補助。地域におけるスポーツをする場の拡大を進めていく

アーバン・フィットネス推進事業 **継続**

- ▶ 日頃からスポーツに親しむ機会が少ない**働き盛り世代のビジネスパーソンに、スポーツのきっかけを提供**



【R4年度の実施内容】@東京駅、立川

- ・健康運動指導士による運動指導
- ・フィットネスマシンの利用体験
- ・スポーツ推進企業によるスポーツ体験ブース
(例) サイバーボッチャ、モルック 等 など



1. 都民のスポーツ活動に関する実態調査－するスポーツ－

○ R5年度の取組（一部抜粋）

だれでもフィットネス推進事業 **継続**

- ▶ 子供や高齢の方を中心に、誰でも気軽に楽しく取り組める運動を紹介する動画を作成するとともに、SNS等を活用し、効果的な広報活動を展開。
体を動かすことの楽しさを伝え、**運動意欲を喚起し、継続的なスポーツ実施や運動習慣の形成**へとつなげていく



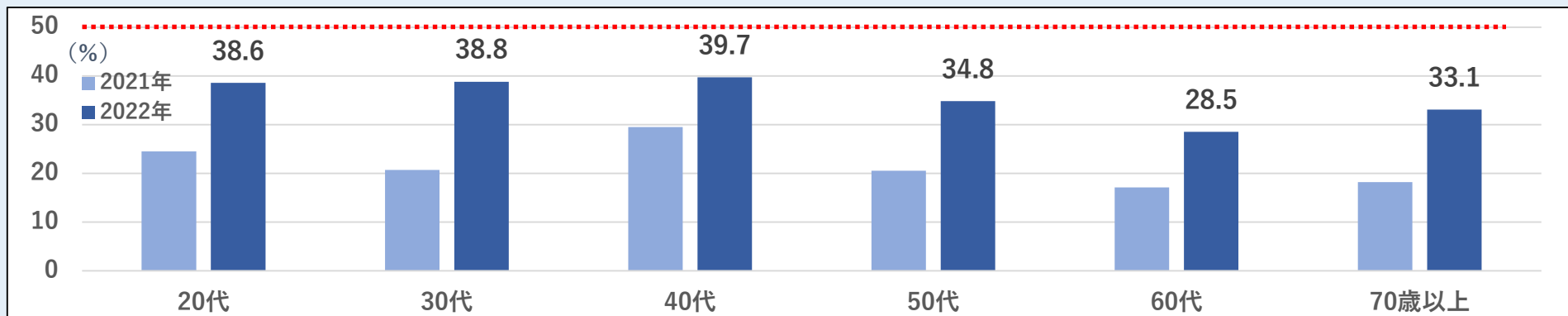
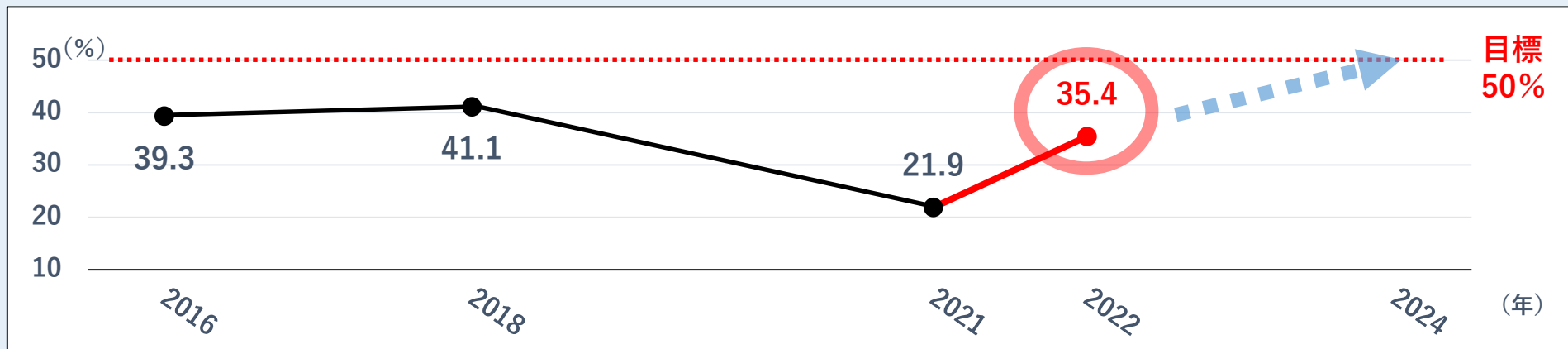
GRAND CYCLE TOKYOの推進（臨海・多摩） **継続** **新規**

- ▶ **臨海部において自転車を体感し、楽しむイベントを実施**するとともに、多摩部では新たに本格的なロードレース等を開催し、**環境にやさしく、健康にもよい自転車を更に身近なもの**としていく



1. 都民のスポーツ活動に関する実態調査－みるスポーツ－

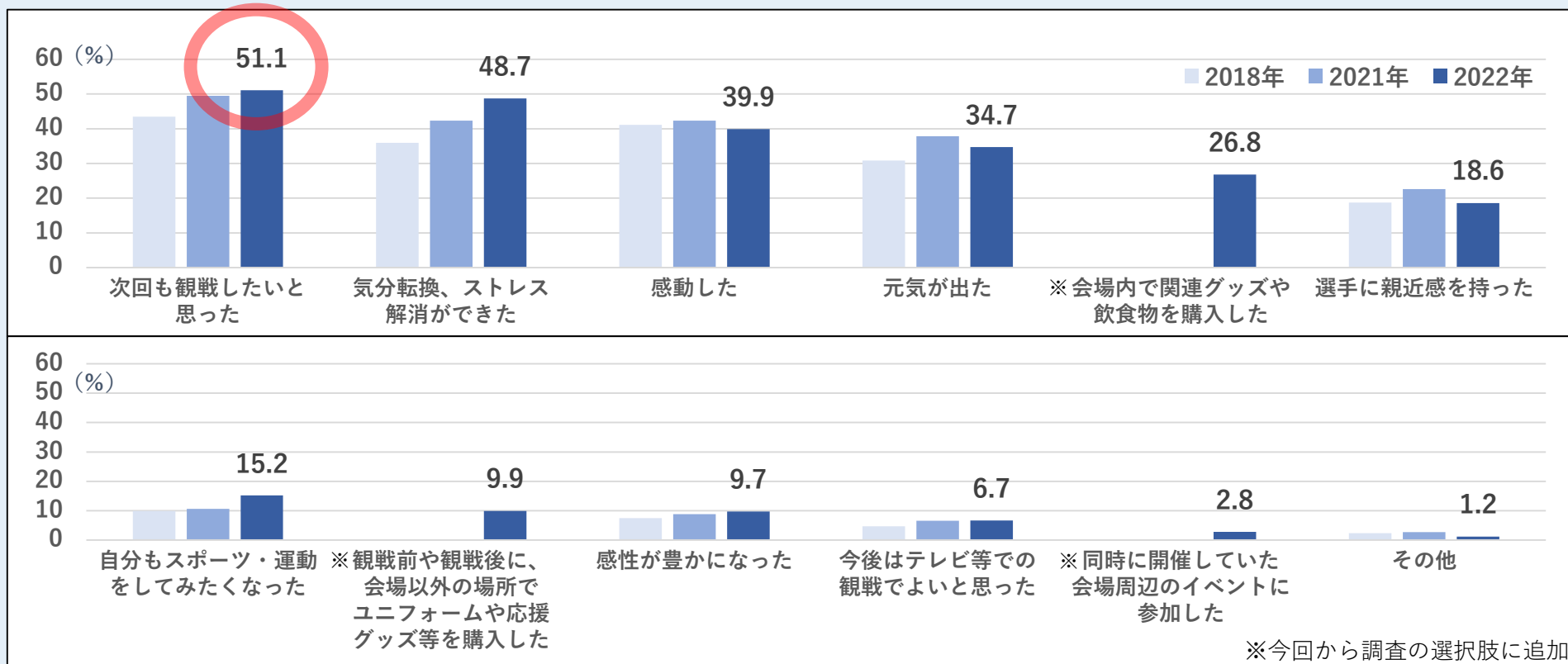
○ この1年間に、スポーツを直接観戦した都民の割合



- この1年間でスポーツを直接観戦した人は35.4%
- 年代別の割合で見ると、20代から40代が4割弱である一方、60代や70代以上が3割前後となっている。目標到達に向けては、全年代の底上げが必要

1. 都民のスポーツ活動に関する実態調査－みるスポーツ－

○ スポーツを実際に観戦して感じたことや観戦時に行ったこと

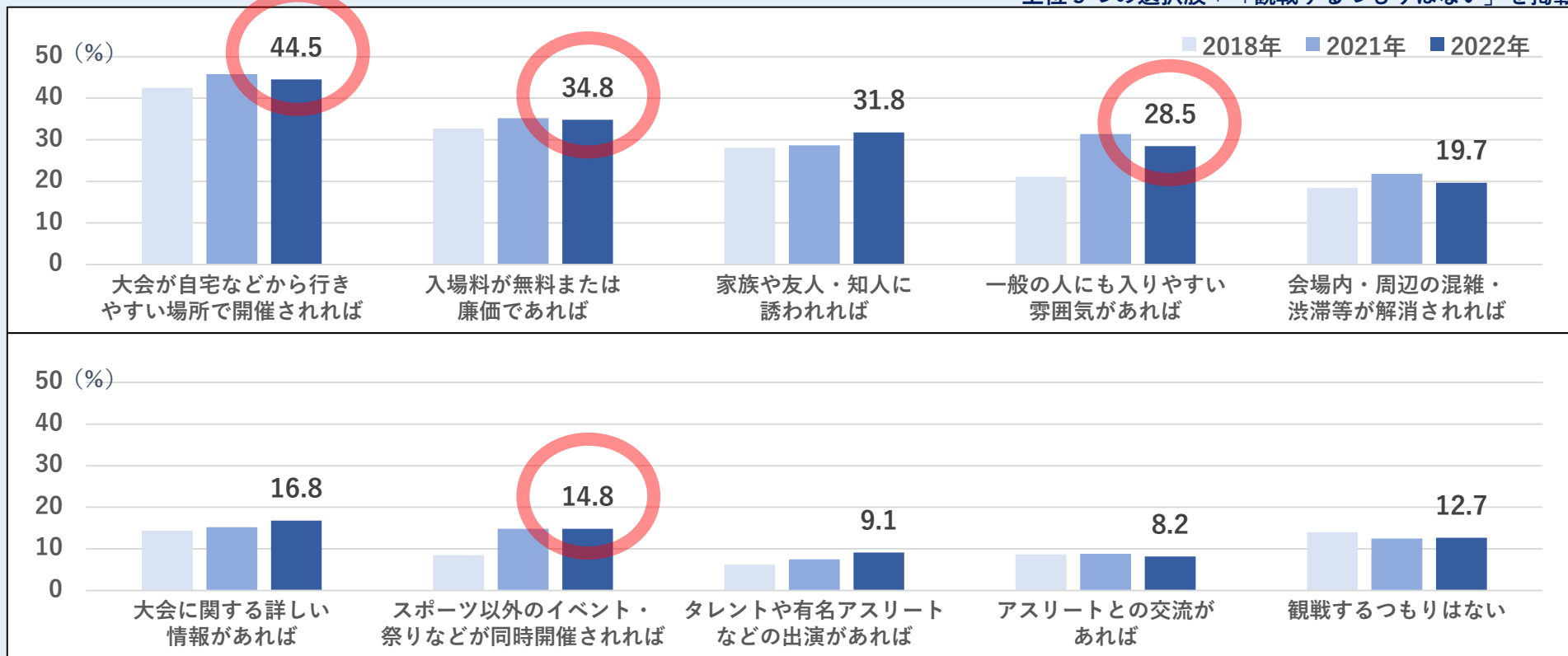


- 半数を超える方が「次回も観戦したいと思った」と回答しており、**まずは会場等に足を運んでもらい、スポーツの魅力を実感してもらうことが重要。**
- スポーツ観戦が、運動意欲の向上や、グッズ購入等によりスポーツを応援することへも寄与しており、**機を逃さず「する」「支える」へつなげていく取組が重要。**

1. 都民のスポーツ活動に関する実態調査－みるスポーツ－

○ どのような取組や工夫があればスポーツを実際に（さらに）観戦してみようと思うか

上位9つの選択肢+「観戦するつもりはない」を掲載



- 「大会が自宅などから行きやすい場所で開催されれば」「一般の人にも入りやすい雰囲気があれば」等、観戦に行くことのハードルを下げる取組が求められている
- 併せて、入場料がかからない、スポーツ以外のイベント等が同時開催されている等、観戦に行ってみようと思うきっかけづくりが重要

1. 都民のスポーツ活動に関する実態調査－みるスポーツ－

○ R5年度の取組（一部抜粋）

プロスポーツチーム等との連携 新規 継続

- ▶ **地域密着型のプロスポーツチーム等と連携**し、試合・大会への**観戦招待**等を実施。親しみのあるチームの試合や身近な場所での開催により、行きやすい環境を整えることで観戦のハードルを低下させていく

様々な大規模スポーツ大会・イベントの開催 新規 継続

※ 時期/定員/場所・内容等はR4年度の内容

大会・イベント名	時期	定員	場所・内容等
東京マラソン	2023.3.5(日)	38,000人	都庁前～東京駅前・沿道でマラソン祭り開催
東京レガシーハーフマラソン	2022.10.16(日)	15,000人	パラマラソンコースを活用・前日等に関連イベント開催
GRAND CYCLE TOKYO	2022.11.23(水・祝)	3,000人 (レインボーライド)	臨海エリア・スポーツ体験イベント「マルチスポーツ」同時開催 R5年度:多摩部での本格的なロードレース等開催

- ・大会等に合わせスポーツ以外のイベント等を同時開催することで**会場に足を運んでもらうきっかけ**とし、**スポーツを実際に観戦する機会**につなげていく

する

〔 レガシービジョン：3スポーツの場を東京の至る所に拡大 〕

現状・課題

- ・ 20代～40代の実施率が61.6%と引き続き低調であり、忙しい中でも「身近な場所で」「気軽に」行えるスポーツ・運動の普及が必要

論点

- ・ 未実施層（子供も含め40代以下の世代）に**継続的にスポーツに取り組んでもらうため、今後どのような場所や機会を提供し、関心喚起**していくか

更なる発展的な視点

- ・ スポーツ実施の機会を捉え、個人の健康促進等に留まらず、人とのつながりや、ダイバーシティへの理解促進、持続可能な環境づくりといった**社会課題の解決へどのように貢献**していくか

みる

〔 レガシービジョン：2国際スポーツ大会の誘致・開催 〕

現状・課題

- ・スポーツを直接観戦した都民の割合は35.4%と、目標の50%に未達であり、達成に向けては観戦機会の創出や見に行きたくなる仕掛けづくりが必要

論点

- ・スポーツを直接観戦してもらうために、情報発信や観戦招待のほか、どのように**会場に足を運ぶきっかけ**を作っていくか

更なる発展的な視点

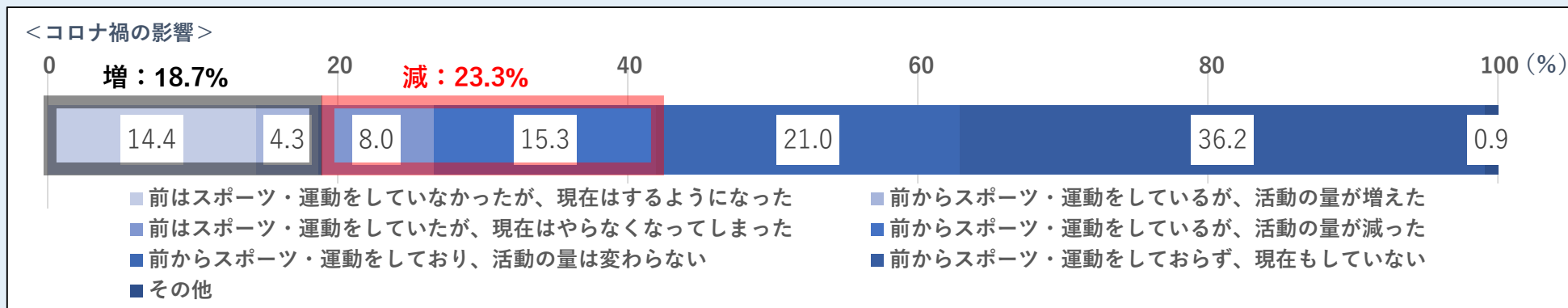
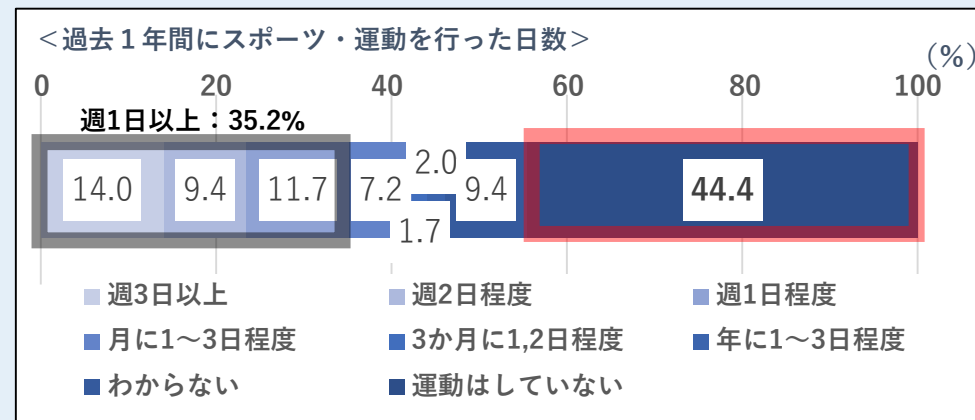
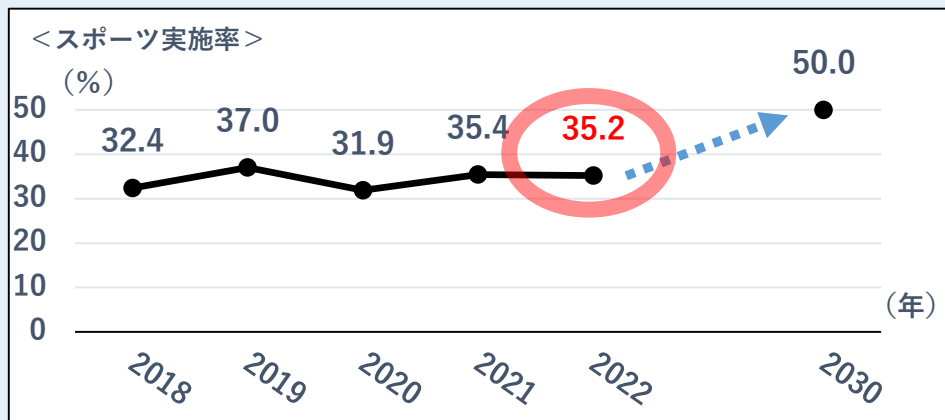
- ・みるから**「する」「支える」**へ、どのようにつなげていくか
- ・多様な主体との連携等、スポーツ観戦を通じた**地域の活性化や観光資源化**などにおいてどのように**シナジー効果**を発揮するか

2. 障害者のスポーツに関する意識調査

- ・ ーするスポーツー **障害者のスポーツ実施率**

2. 障害者のスポーツに関する意識調査

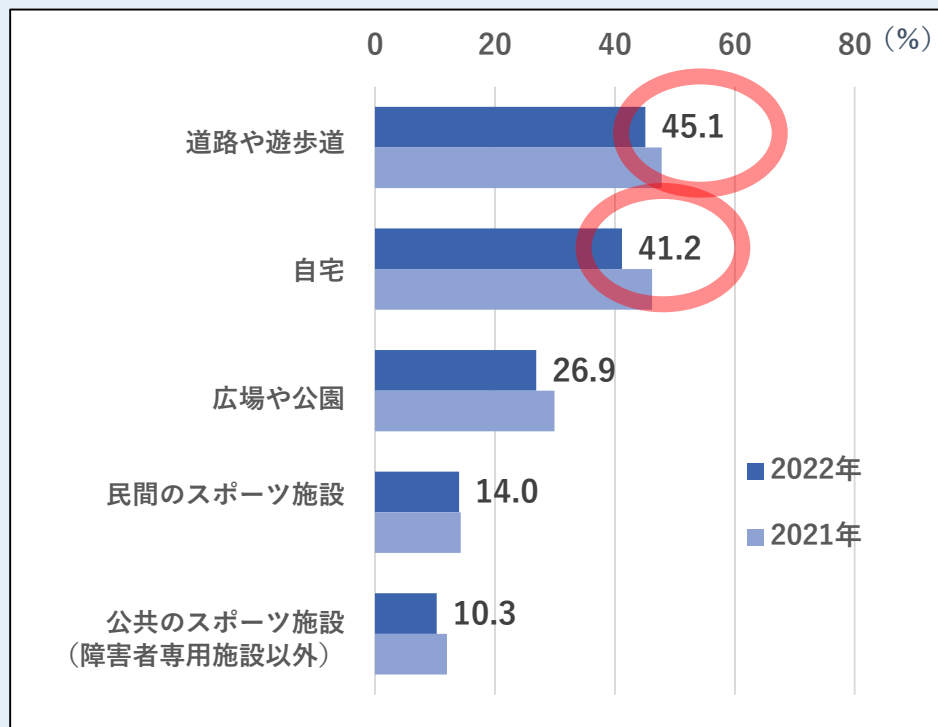
○ スポーツ実施率の推移等



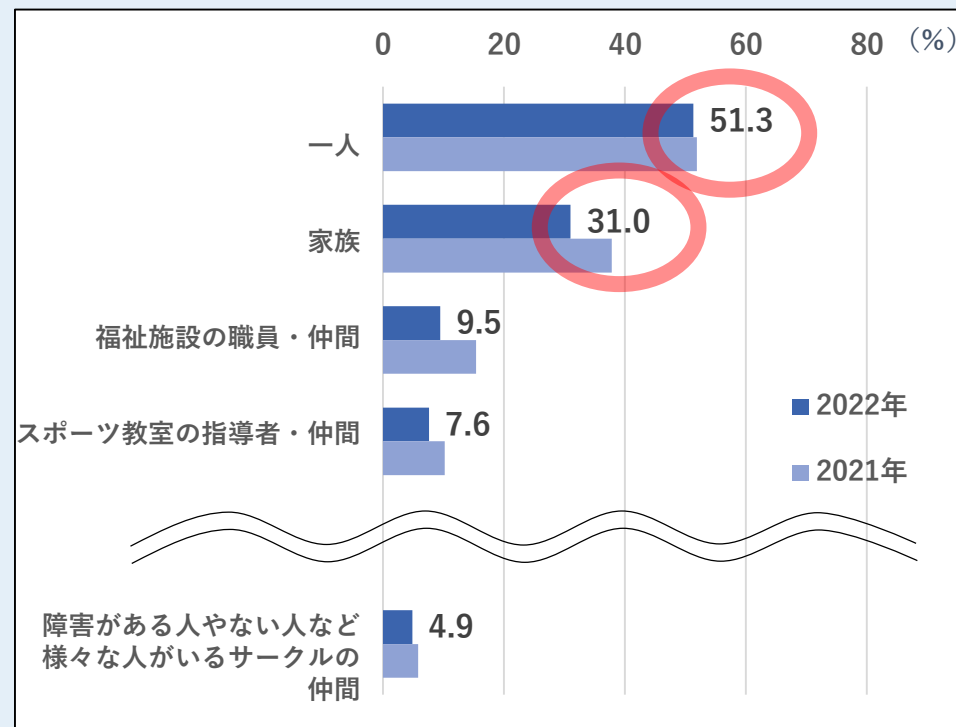
- 2022年度の障害者のスポーツ実施率は35.2%
- 過去1年間で「運動をしていない」が44.4%と約半数に上る
- コロナ禍前後の比較では、実施頻度が減になった割合が増を上回る

2. 障害者のスポーツに関する意識調査

○ 実施する場所（対象：実施者）



○ 一緒に実施する人（対象：実施者）



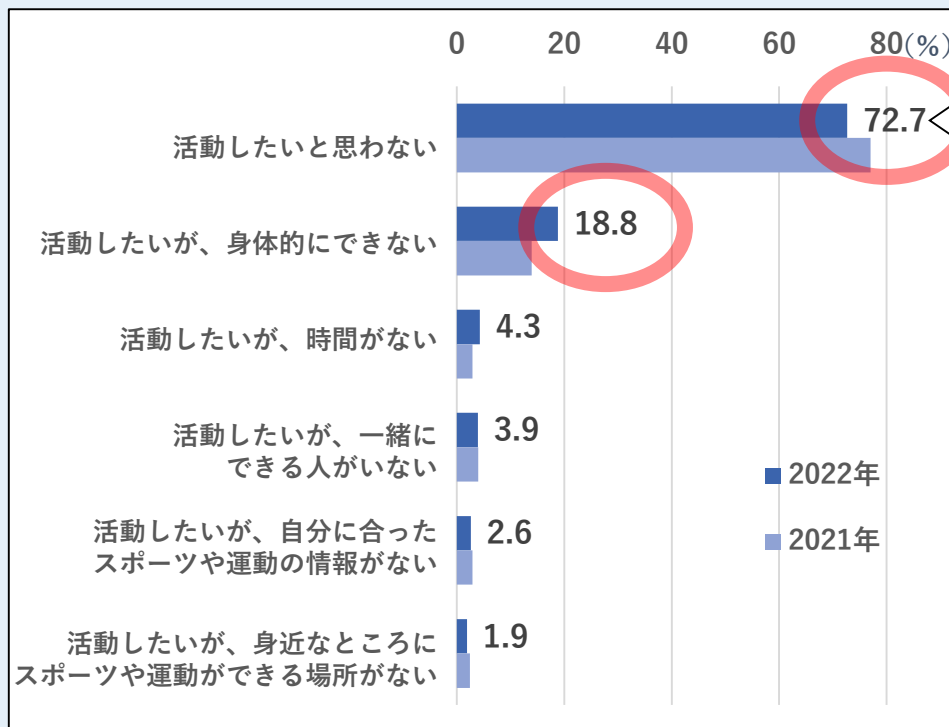
○ 「道路や遊歩道」、「自宅」など身近な場所で運動を実施する傾向

○ 「一人」や「家族」と運動を実施する人が多い

⇒ 身近な場所で安心して運動に取り組める機会が重要である一方で、地域において仲間と楽しむ場への参加を促す方策が課題

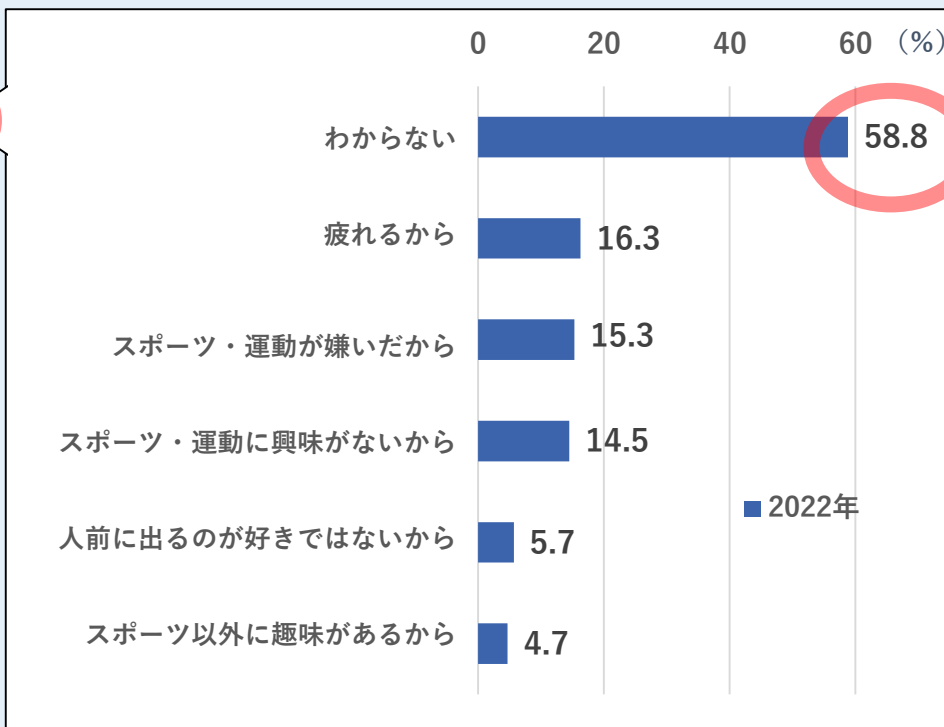
2. 障害者のスポーツに関する意識調査

○ 運動を実施しない理由（対象：未実施者）



○ 活動したいと思わない理由

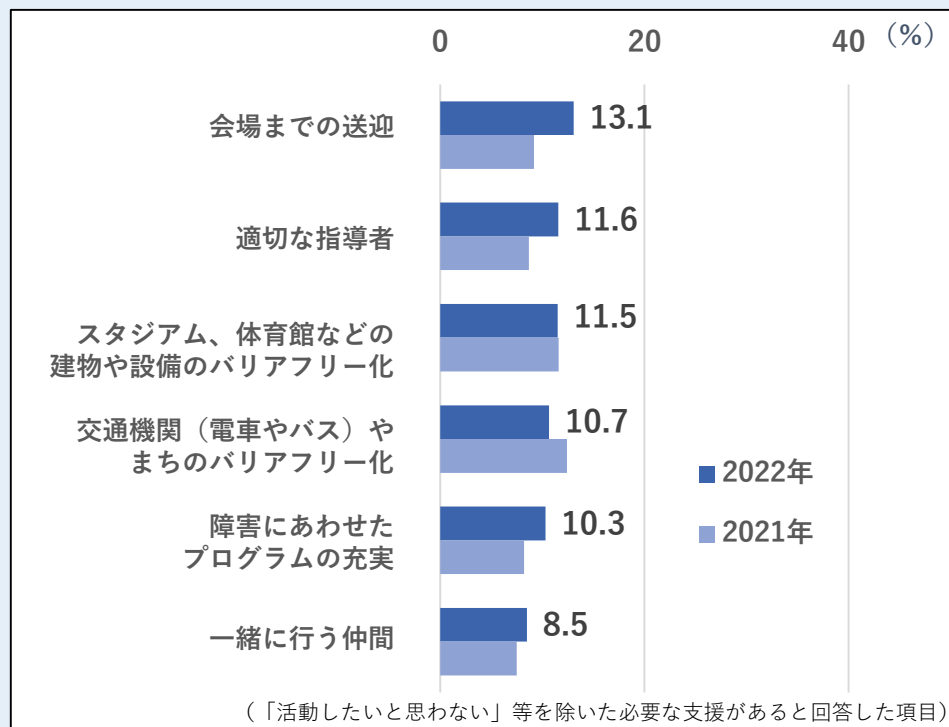
（対象：未実施者のうち、「活動したいと思わない」）



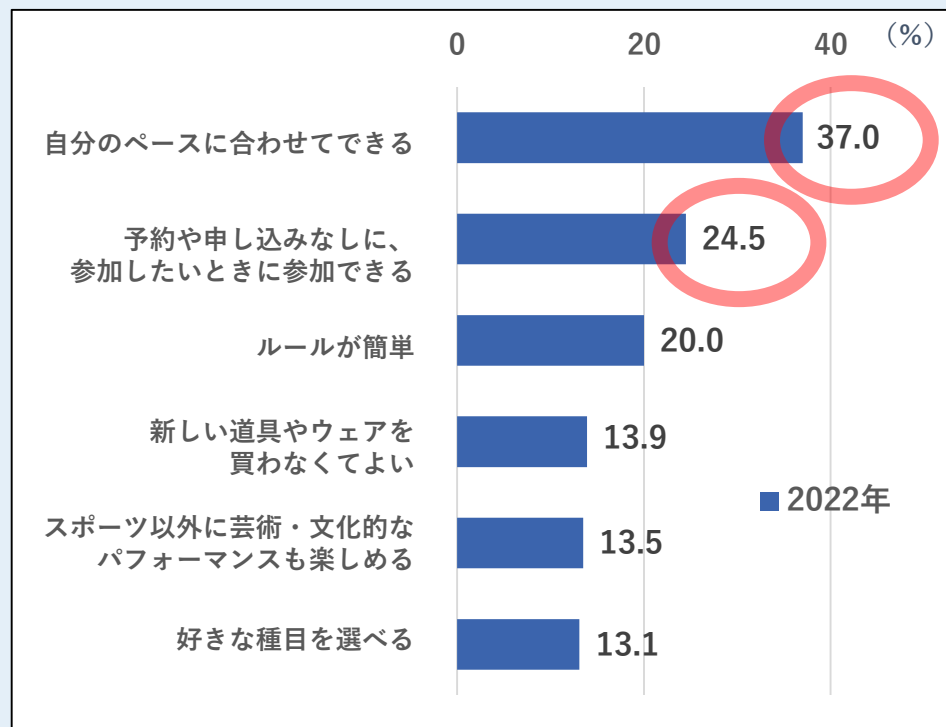
- 実施しない理由として、「活動したいと思わない」無関心層が全体の約7割
 - 「活動したいが身体的にできない」ことを理由として挙げている人も一定数存在
 - 「活動したいと思わない」理由として、「わからない」が最も多い
- ⇒ 実施率向上に向けては、無関心層に対するアプローチを強化することが重要

2. 障害者のスポーツに関する意識調査

○必要と考える支援（対象：全体）



○参加したいスポーツや運動（対象：全体）



- 「会場までの送迎」や「適切な指導者」、「バリアフリー化」など必要とされる支援は多様
- 「自分のペースに合わせてできる」や「予約や申し込みなしに、参加したいときに参加できる」が上位
- ⇒ ソフト・ハード両面での支援の強化や、参加しやすいプログラムの工夫が必要

2. 障害者のスポーツに関する意識調査

○ R5年度の取組（一部抜粋）

障害者スポーツ地域サポート事業、パラスポーツ推進事業（地域コラボ事業） **継続**

▶ 区市町村における**スポーツと福祉・医療、教育等の分野による連携体制の構築**を後押し

- ・ アドバイザーを派遣し、連携体制の構築や、連携して実施する事業に係る助言等
- ・ スポーツ、医療、福祉等の関係者間で課題を共有して、企画された取組への財政支援

障害児・者の運動習慣定着支援事業 **新規**

▶ **日常の居場所で安心して参加できる機会を提供**するとともに、地域でスポーツ・運動を楽しめる仕組みを構築

- ・ 福祉施設等に指導者を派遣するとともに、スポーツ施設でのプログラムへの参加を支援
- ・ 中長期的に地域の中でスポーツを楽しめる受け皿を作るため、関係者との協働を促進

都立特別支援学校活用促進事業 **継続**

▶ 体験教室の内容を新たに**未実施者でも参加しやすいプログラムに工夫**

- ・ 予約不要で、より気軽に様々な種目を体験できる教室を実施
- ・ 無関心層に向けては、芸術文化のパフォーマンス等とも連携し、きっかけを提供

特別支援学校における体験教室



2. 障害者のスポーツに関する意識調査

○ R5年度の取組（一部抜粋）

デジタル技術を活用したパラスポーツ（eパラスポーツ）事業

新規

▶ 障害の程度等の様々な理由で外出が困難な方などに対し、

デジタル技術を活用したスポーツの機会を提供

- ・ 福祉施設等にeスポーツ機器を提供し日常的に取り組んでもらうことで、心身機能の維持・向上や交流促進に繋げる
- ・ 障害のある人とない人が対戦できる交流会を実施



ボタンや様々な福祉用具でプレー可能なeスポーツ

障害者のスポーツ施設利用促進事業

拡充

▶ 障害者に身近な地域のスポーツ施設の利用を促進するため、

スポーツ施設に対する支援を強化

- ・ 区市町村スポーツ施設にアドバイザーを派遣し、障害者の施設利用に向けた課題抽出から改善までを支援
- ・ 区市町村や民間のスポーツ施設向けにマニュアル普及のための研修会を実施

する

〔 レガシービジョン：4パラスポーツの振興 〕

現状・課題

- ・スポーツ未実施者のうち7割を占める「運動を実施したいと思わない」無関心層への多面的なアプローチが必要
- ・ソフト・ハード両面でのバリアフリー環境整備の働きかけをさらに強化するほか、障害者が参加しやすい場の充実や工夫が必要

論点

- ・無関心の人や、運動したいができない人でも取り組みやすい環境をどのように整備していくか（場所、機会、連携先、デジタル技術の活用等）
- ・地域のスポーツ活動（障害の有無に関わらず一緒にスポーツに親しむ場）に参加していただくため、どのように内容や広報を工夫していくか